

令和4年度

教育に関する事務執行状況の
点検・評価報告書

(令和3年度事業分)

八代市教育委員会

は じ め に

教育委員会は、首長から独立した合議制の組織であり、同委員会が自ら立てた教育行政の基本方針に基づき、教育に係る広範かつ専門的な事務が確実に実施されることが求められています。

このような中で、平成19年6月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

今年度で14回目となる八代市教育委員会の事務執行状況の点検・評価においては、点検・評価結果をより総合計画や予算に反映させるために、市議会決算審査に伴う各常任委員会に提出される「主要な施策の成果に関する調書」に掲載される事業を基本としながら教育委員の意向を踏まえて対象事業を選定し、「八代市教育振興基本計画」の進捗管理に生かすため、同計画における施策の体系や事務事業の達成度を記入する欄を設けた評価票様式としております。

また、平成27年度から、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしており、3名の外部評価委員の方からの意見をいただいております。

本報告書により、令和3年度の教育委員会の活動を振り返り、市総合計画の基本目標の一つである「郷土を担い学びあう人を育むまち」及び八代市教育振興基本計画の基本理念である「やつしろの絆でつむぐ心豊かな人づくり」の実現に向けた事務事業の進捗状況等を点検・評価し、課題や問題点を見つめ直して効果的な教育行政の推進に努めるとともに、その結果を公表して市民への説明責任を果たしたいと考えています。

令和4年11月

八代市教育委員会

〈参考〉 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目次

1. 教育委員会の運営状況		
(1) 教育委員会の概要	1
① 教育委員会の目的	1
② 教育委員会制度の仕組み	1
③ 八代市教育委員会教育長及び委員	1
(2) 教育委員会の主な活動内容	2
① 教育委員会会議	2
② 教育委員の会議・研修等への参加状況	5
2. 教育委員会事務局の組織と担当業務		
(1) 事務局組織図	6
(2) 事務局及び教育機関担当業務	7
3. 令和4年度（令和3年度分）の事務執行状況の点検・評価について		
(1) 点検・評価の実施方法	8
(2) 点検・評価の対象	8
(3) 点検・評価に当たっての知見の活用	8
4. 点検・評価票		
(1) 一覧表	13
(2) 個別票	14

1. 教育委員会の運営状況

(1) 教育委員会の概要

① 教育委員会の目的

教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興を図るため、広く地域住民の意向を反映した責任ある教育行政を実現します。

(地方自治法第180条の8)

教育委員会は、別に法律の定めるところにより、学校その他の教育機関を管理し、学校の組織編制、教育課程、教科書その他の教材の取扱い及び教育職員の身分取扱いに関する事務を行い、並びに社会教育その他教育、学術及び文化に関する事務を管理し及びこれを執行する。

② 教育委員会制度の仕組み

- ・教育委員会は、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置（地教行法第2条）
- ・首長から独立した行政委員会としての位置付け（地方自治法第180条の8）
- ・教育委員会は、教育行政における重要事項や基本方針を決定する。（地教行法第21条）
- ・教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表する。（地教行法第13条）
- ・教育長は、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命。任期は3年で、再任可（地教行法第4条及び第5条）
- ・教育委員は、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命。任期は4年で、再任可（地教行法第4条及び第5条）

③ 八代市教育委員会 教育長及び教育委員

(令和4年3月31日現在)

教育長：1人

(任期3年)

役職名	氏名	任期
教育長	北岡 博	令和3年4月1日 ～ 令和6年3月31日

教育委員：4人

(任期4年)

役職名	氏名	任期
委員 (教育長職務代理者)	渡邊 裕一	令和3年11月2日 ～ 令和7年11月1日
委員	松永 松喜	平成30年10月1日 ～ 令和4年9月30日
委員	奥村 留美子	令和元年10月1日 ～ 令和5年9月30日
委員	早田 蛍	令和3年11月2日 ～ 令和7年11月1日

(2) 教育委員会の主な活動内容

① 教育委員会会議

教育委員会の会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「八代市教育委員会会議規則」の規定に基づき開催しました。

<教育委員会会議の開催状況>

令和3年度実績

定例会	12回	(令和2年度 12回)
臨時会	2回	(令和2年度 7回)
委員協議会	12回	(令和2年度 12回)

<定例会・臨時会における議案等の審議内容>

◇議案案件	37件	(令和2年度 26件)
・基本方針、計画の策定	4件	(令和2年度 1件)
・条例案、規則、規定の制定、改廃	15件	(令和2年度 10件)
・協議会、審議会委員の任命、委嘱	15件	(令和2年度 8件)
・職員の人事	1件	(令和2年度 1件)
・教科書の採択	0件	(令和2年度 1件)
・その他(点検・評価報告を含む)	2件	(令和2年度 5件)
◇協議案件	6件	(令和元年(平成31年)度 5件)
◇報告案件	32件	(令和元年(平成31年)度 23件)

◆議案案件事項一覧(37件)

※議案番号は、暦年で付しています。

開催日	議案番号	議 事 案 件 等
4月定例会 (4月20日)	3	八代市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について
	4	八代市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について
5月定例会 (5月26日)	5	八代市立図書館協議会委員の任命について
	6	八代市立幼稚園規模適正化等審議会委員の就任について
	7	八代市心身障害児生徒就学指導委員会委員の委嘱について
	8	八代市学校運営協議会委員の委嘱又は任命について
	9	八代市奨学生選考委員会委員の委嘱について
6月定例会 (6月28日)	10	八代市文化財保護委員会委員の委嘱について
	11	「八代干拓遺跡群」(仮称)の史跡指定に係る意見具申について
	12	八代市学校運営協議会委員の委嘱又は任命について
	13	八代市外国語指導助手の任用に関する規則の一部改正について

開催日	議案番号	議 事 案 件 等
7 月定例会 (7 月 29 日)	14	八代市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について
	15	八代市学校運営協議会委員の委嘱又は任命について
	16	八代市社会教育委員の委嘱について
	17	八代市公民館運営審議会委員の委嘱について
9 月定例会 (9 月 22 日)	18	八代市放課後対策事業運営委員会設置要綱の廃止について
	19	八代市立博物館未来の森ミュージアム協議会委員の任命について
10 月定例会 (10 月 20 日)	20	八代市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について
11 月定例会 (11 月 18 日)	21	令和 3 年度教育に関する事務執行状況の点検・評価報告書について
1 月定例会 (1 月 20 日)	1	八代市立学校体育施設等条例の一部改正について
	2	八代市立体育施設等条例施行規則及び八代市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正について
	3	八代市教育委員会事務局の位置に関する規則の一部改正について
	4	八代市教育委員会公印規程の一部改正について
	5	八代市立学校等における独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金の徴収に関する規則の制定について
	6	熊本県八代市立学校管理規則及び八代市立特別支援学校学則の一部改正について
	7	八代市社会教育センター条例の一部改正について
	8	八代市教育サポートセンター条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則の制定について
	9	やつしろ子ども支援相談室設置要綱の一部改正について
2 月定例会 (2 月 21 日)	10	八代市文化財保存事業費補助金交付要綱の一部改正について
	11	八代市教育委員会組織規則の一部改正について
	12	八代市学校給食施設再編整備方針(案)について
	13	八代市教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部改正について
	14	八代市 E d T e c h 推進基本方針(案)について
2 月臨時会 (2 月 25 日・28 日)	15	県費負担教職員の人事異動について
3 月定例会 (3 月 28 日)	16	八代市立小・中学校遠距離通学費補助事業実施要綱の制定について
	17	第 3 期八代市教育振興基本計画(案)について
	18	八代市 EdTech 推進基本方針の一部改正について

◆協議案件一覧（6件）

開催日	議案番号	議 事 案 件 等
7月定例会 (7月29日)	2	教育に関する事務執行状況の点検・評価の実施について
8月定例会 (8月18日)	3	八代市E d T e c h(エドテック)推進基本方針(案)について
	4	教育に関する事務執行状況の点検・評価の実施について
10月定例会 (10月20日)	5	令和3年度第2回八代市総合教育会議の協議案件の教育委員会提案について
11月定例会 (11月18日)	6	第3期八代市教育振興基本計画(素案)について
12月定例会 (12月22日)	7	第3期八代市教育振興基本計画(素案)について

◆報告案件一覧（32件）

開催日	議案番号	議 事 案 件 等
4月定例会 (4月20日)	7	令和3年度教育部組織目標について
	8	臨時代理報告・八代市教育委員会職員の人事異動について
	9	八代市童話発表大会の終了について
5月定例会 (5月26日)	10	八代市立図書館 移動図書館の見直しについて
	11	第3期八代市教育振興基本計画策定について
6月定例会 (6月28日)	12	八代市議会令和3年6月定例会について
	13	令和3年度6月補正予算の概要について
	14	第2期八代市教育振興基本計画の進行管理について
	15	第2回八代市立幼稚園規模適正化等審議会について
7月定例会 (7月29日)	16	公益財団法人八代市学校給食会経営状況報告について
	17	八代市放課後対策事業運営委員会について
8月定例会 (8月18日)	18	第3回八代市立幼稚園規模適正化等審議会について
9月定例会 (9月22日)	19	第4回八代市立幼稚園規模適正化等審議会について
	20	令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について
11月定例会 (11月18日)	21	令和3年度9月補正予算の概要について
	22	令和2年度決算審査における質疑・要望等の概要について
	23	令和2年度八代市学校・子ども教育応援基金事業の取組状況について
	24	第1回八代市中学校部活動改革検討委員会について
	25	第5回八代市立幼稚園規模適正化等審議会について
	26	施設整備計画の事後評価について
	27	臨時代理報告・八代市教育サポートセンター条例の一部改正について

開催日	議案番号	議 事 案 件 等
12月定例会 (12月22日)	28	八代市議会令和3年12月定例会について
	29	令和3年度12月補正予算の概要について
	30	第6回八代市立幼稚園規模適正化等審議会について
1月定例会 (1月20日)	1	八代市電子図書館の利用方法等について
	2	八代市教育大綱の策定について
2月定例会 (2月21日)	3	八代市立幼稚園規模適正化等審議会から教育長への答申書の提出について
2月臨時会 (2月25日)	4	令和3年度熊本県学力・学習状況調査の結果について
3月定例会 (3月28日)	5	八代市議会令和4年3月定例会について
	6	令和3年度3月補正予算及び令和4年度当初予算の概要について
	7	八代市教育大綱(第3期)について
	8	八代市E d T e c h推進計画について

② 教育委員の会議・研修等への参加状況

<会議・研修会等への参加状況>

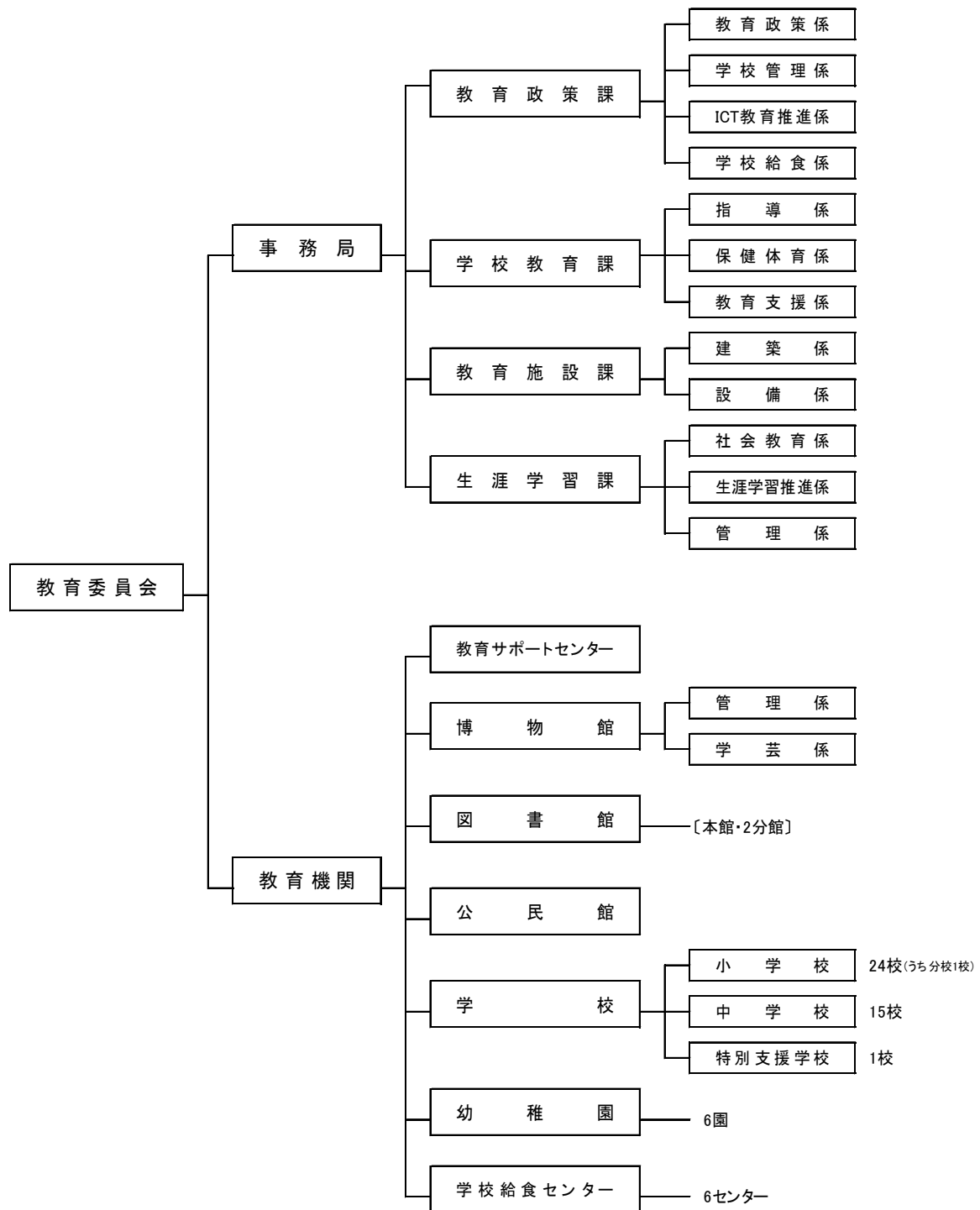
(※教育委員会の定例会・臨時会・委員協議会及び主催者・来賓等で出席した会議、会合等を除く。)

◇学校訪問	17回
◇式典	0回
◇研修会等	0回

2. 教育委員会事務局の組織と担当業務

(1) 事務局組織図

(令和4年4月1日現在)



(2) 事務局及び教育機関担当業務

担当課	主な業務
教育政策課	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教育委員会の会議 (2) 総合教育会議に係る事務の補助執行 (3) 事務局及び教育機関の政策調整業務 (4) 教育に係る施策の総合的企画、調査研究及び総合調整 (5) 条例、規則、規程等 (6) 公示及び令達 (7) 公印の管守 (8) 請願及び陳情の連絡調整 (9) 教育の振興に係る基本計画及び教育に係る重要施策の進行管理 (10) 教育委員会に係る事務の管理及び執行の状況の点検及び評価並びにその公表 (11) 教育委員会の組織機構及び職員配置 (12) 市費職員の人事(幼稚園教員の人事を除く。)、給与、服務、研修及び福利厚生 (13) 奨学資金貸付金 (14) 学校及び幼稚園予算の配当手続及び出納 (15) 学校の用に供する物品の調達、管理及び処分 (16) 学校施設の使用 (17) スクールバスその他の通学手段 (18) ICT教育の推進及びICT環境整備に関すること。 (19) 学校及び幼稚園の給食運営に関すること。 (20) 学校給食センターの運営に関すること。 (21) 学校給食に従事する職員の研修に関すること。 (22) 学校及び学校給食センターの給食設備に関すること。 (23) 公益財団法人学校給食会に関すること。
学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校及び幼稚園の管理運営、教育課程及び教育指導 (2) 学校及び幼稚園の学級編制並びに教職員人事 (3) 園児、児童及び生徒の就園、就学及び転出入 (4) 就学援助及び特別支援教育の就学奨励 (5) 教科用図書その他教材の取扱い (6) 学校及び幼稚園の教職員の服務及び研修 (7) 学校人権教育 (8) 教育サポートセンターとの連携 (9) 園児、児童、生徒及び教職員の保健及び安全 (10) 日本スポーツ振興センター (11) 学校医、学校歯科医及び学校薬剤師
教育施設課	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校及び幼稚園の設置、保全管理及び廃止 (2) 学校及び幼稚園の計画及び申請 (3) 教育財産の取得及び処分の手続 (4) 教育関係土地建物の貸借契約 (5) 教育施設の工事の設計、施工及び監督
生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> (1) 社会教育に係る総合的計画及び資料収集 (2) 社会教育委員会 (3) 社会教育施設の設置及び廃止 (4) 社会教育団体 (5) 各種社会教育学級の開設及び講座、講演等 (6) 青少年及び成人教育 (7) 生涯学習推進体制の整備 (8) 公民館事業の企画及び運営 (9) 公民館の維持管理 (10) 社会人権同和教育 (11) 人権政策課及び学校人権教育との連携及び相互協力 (12) 図書館 (13) 博物館との連絡調整 (14) 文化に関する事務の市長部局との連絡調整及び文化財保護 (15) スポーツに関する事務の市長部局との連絡調整
教育サポートセンター	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教育に係る専門的及び技術的事項の調査研究 (2) 教育関係の図書及び資料の収集及び活用 (3) 教育関係職員の研修 (4) 教育に係る相談 (5) その他教育委員会が必要と認める事業 (6) 適応指導教室の運営
博物館	<ul style="list-style-type: none"> (1) 博物館運営上の企画及び立案 (2) 博物館施設等の維持管理及び利用許可 (3) 観覧料及び使用料 (4) 博物館資料の収集、保管及び展示並びに調査研究 (5) 博物館資料の特別利用及び館外貸出し (6) 博物館資料に係る説明並びに目録、報告書等の作成及び配布 (7) 展覧会、講演会、講習会、研究会等の開催 (8) 博物館事業の普及及び広報 (9) 他の博物館、図書館、公民館、学校その他関係機関との協力及び活動の援助

3. 令和4年度（令和3年度分）の事務執行状況の点検・評価について

（1）点検・評価の実施方法

八代市教育委員会では、平成23年度までは八代市総合計画・前期基本計画で掲げた事務事業について達成度評価基準に基づき専用の評価票で評価を行い、平成24年度からは市全体での事務事業評価の開始に伴い、市長部局と一体的に実施することが他課かいとの連携や予算編成等にも活用できる効果が期待されると教育委員会で判断したことから、教育委員会で実施していた事務執行状況の点検・評価を、市全体で実施する事務事業評価をもって代えました。

令和3年度からは、市で実施する事務事業評価の見直しの結果、市全体の事務事業評価の実施はなくなりましたが、教育委員会においては引き続き、これまでの事務事業評価票の様式にて評価を実施することとしました。（「八代市教育振興基本計画」の進捗管理に活用するために書式の一部を変更しています。）

（2）点検・評価の対象

教育委員会で実施する点検・評価の対象とする事業については、決算審査に伴う各常任委員会の対象事業である「主要な施策の成果に関する調書」に掲載される事業を基本としながら教育委員の意向を踏まえ、選定しています。また、「八代市教育振興基本計画」にある「主な施策」に関する事業も評価対象に加えて実施することにしました。

（3）点検・評価に当たっての知見の活用

平成27年度から、点検評価に当たっては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定による教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、教育委員会が実施した点検・評価について、3名の外部評価委員から意見等を聴取します。

○八代市教育委員会外部評価委員

坂本 哲朗 氏	中九州短期大学副学長
三栗野 恵美子 氏	八代市地域婦人会連絡協議会会長
松本 啓佑 氏	八代市PTA連絡協議会会長

○外部評価委員の意見等

令和4年度は、外部評価委員会を9月及び10月に計2回開催し、令和3年度事業のうち、下記の10事業について、外部評価委員より意見等をいただきました。

[外部評価対象10事業] (分野)

- ① 不登校児童生徒の適応指導事業【教育サポートセンター】……学校教育
- ② ICT授業サポート事業【学校教育課】……学校教育
- ③ 特別支援教育推進事業【学校教育課】……学校教育
- ④ 新型コロナウイルス感染症対策事業（小・中・支援学校端末整備）
【教育政策課】……学校教育
- ⑤ 学校通学関係事業【教育政策課】……学校教育
- ⑥ 学校等施設整備事業【教育施設課】……学校教育施設
- ⑦ 学校等非構造部材耐震化事業【教育施設課】……学校教育施設
- ⑧ 青少年体験活動事業【生涯学習課】……生涯学習
- ⑨ 博物館特別展覧会事業【博物館】……生涯学習
- ⑩ 自治公民館再建支援事業（豪雨災害）【生涯学習課】……生涯学習

以下、その内容について分野別に記載しています。

1. 学校教育について

- ① 不登校児童生徒の適応指導事業は、適応指導教室（くま川教室）に通級している不登校状態にある子供に対して、個別や集団での活動を通して適応指導を行うことにより、学校復帰を支援し、社会的な自立を目指すものです。

委員からは、早急な学校復帰はできなくても、その後自立・自律への道を歩んでいる人に出会うことがあるのは大変嬉しく、また、指導員、サポーターの人員・人材が確保できていることをありがたく思うという意見や、施設移転の協議を加速度的に行っていただきたい、1人でも不登校の子供を減らすためにも規模拡充が必要であり、今話題になっている問題と認識しているとの意見がありました。

- ② ICT授業サポート事業は、ICT機器の効果的な活用方法を教職員が習得し、ICT機器を活用した学習指導の工夫改善を行うことで、児童生徒の学習意欲を喚起し、学力の向上を図るため、ICT授業サポーターによる小中学校への巡回訪問支援及びヘルプデスクでの遠隔支援を行うものです。また、ICTを活用した教育の質の向上に向けて、学校におけるICT環境の適切な整備と効果的な活用を一層促進するため、ICT教育推進アドバイザーによるICT活用に関する専門的な助言や研修支援等を行うものです。

委員からは、ICT教育推進や授業サポートが急速に進んでおり、概数として学校情報化優良校認定達成が50%、80%、100%と充実する姿が見える一方で、基礎学力向上、学び方改革、働き方改革などの課題も大きくあり、多方面にわたる調和のとれた評価が必要であるという意見がありました。

- ③ 特別支援教育推進事業は、発達障がいを含む障がいのある幼児児童生徒及び特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の能力や可能性を伸ばし、自立と社会参加

に向けた主体的な取組を支援するため、福祉・医療・学校・行政等の関係者で構成する特別支援連携協議会等を設置し、総合的な支援体制を目指すものです。

委員からは、特別支援学校コーディネーターと教育サポートセンターアドバイザーの協力や調整により、当推進事業が今後も円滑に進むことを期待したいとの意見がありました。

- ④ 新型コロナウイルス感染症対策事業（小・中・支援学校端末整備）は、国のGIGAスクール構想に基づき小中支援学校に1人1台端末（パソコン）を整備し、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子供たちの学びを保障できる環境を整備するものです。

委員からは、GIGAスクール構想に基づく1人1台端末の整備は急速に完了したが、環境整備後の継続的な活用推進と課題解決をお願いしたいとの意見がありました。

- ⑤ 学校通学関係事業は、遠距離等により通学困難な児童生徒の支援のため、スクールバス運行及び通学に要する経費の補助を行い、安全安心な通学環境を確保するものです。

委員からは、バス通学生の安全安心、さらに安定した通学環境の維持には民間委託の推進も必要だと思ふとの意見がありました。

事業名	今後の方向性		
	内部評価	外部評価	
不登校児童生徒の適応指導事業	市による実施 (規模拡充)	市による実施 (規模拡充)	3票
ICT授業サポート事業	市による実施 (規模拡充)	市による実施 (規模拡充)	3票
特別支援教育推進事業	市による実施 (現行どおり)	市による実施 (現行どおり)	3票
新型コロナウイルス感染症対策事業(小・中・支援学校端末整備)	完了(終了)	完了(終了)	3票
学校通学関係事業	市による実施 (現行どおり)	市による実施 (現行どおり)	3票

2. 学校教育施設について

- ⑥ 学校等施設整備事業は、小、中、支援学校、幼稚園の施設について、安全・安心で快適な教育環境を提供するため、緊急対応が必要な修繕や機能維持及び向上のための整備を行うとともに、大規模災害時の避難所として必要な防災機能の強化・充実を図るため、通路のバリアフリー化や屋外トイレ、屋外通路照明の整備などを行うものです。

委員からは、教室数の確保、老朽化への対応、省エネ対策のLED化など課題が多数、多額であるなか推進してもらいたいという意見や、子供たちが過ごしやすい環境を整えるためにも規模拡充してもらい、これからの子供たちの教育環境の向上に期待するとの意見がありました。

- ⑦ 学校等非構造部材耐震化事業は、地震時における児童生徒等の安全及び災害時の避難所機能を確保するため、小、中、支援学校、幼稚園の非構造部材（外壁、吊り天井など）について、落下防止対策などを行い、耐震化を図るものです。

委員からは、天井等落下対策が完了して安心したが、外壁落下事故の報道もあることから、早急かつ計画的に改修が進むことを願っているとの意見がありました。

事業名	今後の方向性		
	内部評価	外部評価	
学校等施設整備事業	市による実施 (規模拡充)	市による実施 (規模拡充)	3票
学校等非構造部材耐震化事業	市による実施 (規模拡充)	市による実施 (規模拡充)	3票

3. 生涯学習について

- ⑧ 青少年体験活動事業は、豊かな自然の中での野外活動や集団生活を通じて、自主性や協調性を育み、地域との交流を深めながら豊かな感性と健全な心身の育成を図るものです。また、親子で共に体験活動を行い、驚きや感動を共有し、親子の絆を深め、市内外各地域を会場として体験プログラムを企画し、開催するものです。

委員からは、コロナ禍でも開催できるような対策やプログラムを実行するには、困難もあるかもしれないが、継続して開催されていることに感謝するとの意見がありました。

- ⑨ 博物館特別展覧会事業は、八代の歴史と文化への理解を深め、郷土への愛着を育むため、その特色を探求し、魅力を発信する秋季展、全国各地の名品を八代にいなながら鑑賞できる春季展、夏休み期間中の子どもたちも地域の歴史や文化を楽しく学べる夏季展、城下町文化や八代の工芸品を紹介する冬季展など、多彩な内容の特別展を年4回開催するものです。

委員からは、様々な工夫があり、魅力あふれる情報発信ができていし、図録の

割引販売には驚かされたとの意見や、アンケートに今後のテーマをヒアリングできる内容を入れて、市民が興味を持つより良い企画を考案してもらいたいとの意見がありました。

- ⑩ 自治公民館再建支援事業（豪雨災害）は、令和2年7月豪雨により被災した坂本地区の自治公民館の再建に対して、事業費の3／4の補助を行うものです。

委員からは、地元住民の思いや選択を大事にされた対応は素晴らしい。まずは、自宅の復旧・復興を、次に集落の復興を願っているとの意見がありました。

事業名	今後の方向性		
	内部評価	外部評価	
青少年体験活動事業	市による実施 (現行どおり)	市による実施 (現行どおり)	3票
博物館特別展覧会事業	市による実施 (現行どおり)	市による実施 (現行どおり)	3票
自治公民館再建支援事業 (豪雨災害)	市による実施 (現行どおり)	市による実施 (現行どおり)	3票

4. 点検・評価票

(1) 一覧表

総合計画		教育振興基本計画		番号	事務事業名	担当課かい				
基本目標	施策の大綱	具体的な施策	基本目標				基本方針	主な施策		
郷土を担い 学びあう人 を育むまち	「生きる力」を身につけた未来を担うひとづくり 誰もが学べる生涯学習のまちづくり 郷土の文化・伝統に親しむまちづくり	<p>学校教育の充実</p> <p>学校・家庭・地域の協働により社会全体の教育力を高めます</p> <p>生涯学習し施設と連携した生涯学習推進体制の整備</p> <p>社会教育施設施設の整備・充実</p> <p>文化施設の整備・充実</p>	豊かな心の育成	「不登校対策やつしろプラン」の共通実践	18	不登校児童生徒の適応指導事業	教育サポートセンター			
			確かな学力の育成	「学力向上やつしろプラン」の共通実践	6	学校教材充実事業	学校教育課			
			健やかな体の育成	子どもたち一人一人の「生きる力」を育みます	8	I C T授業サポート事業	学校教育課			
			特別支援教育の推進	特別支援教育の推進	7	学校体育振興事業	学校教育課			
			教育環境の整備・充実	学校・幼稚園の教育力を高めます	学校・家庭・地域の協働により社会全体の教育力を高めます	特別支援教育推進事業	特別支援教育推進事業	5	特別支援教育推進事業	学校教育課
						学校 I C T環境の整備	学校 I C T環境の整備	17	特別支援教育相談事業	教育サポートセンター
			学校・幼稚園の教育力を高めます	学校・家庭・地域の協働により社会全体の教育力を高めます	学校・家庭・地域の協働により社会全体の教育力を高めます	就園・就学等への支援	就園・就学等への支援	4	新型コロナウイルス感染症対策事業(小・中・支援学校端末整備)	教育政策課
						学校教育を支援する基金の創設	学校教育を支援する基金の創設	1	寄宿舎管理事業	教育政策課
			生涯学習し施設と連携した生涯学習推進体制の整備	誰もが学べる生涯学習のまちづくり	学校・家庭・地域の協働により社会全体の教育力を高めます	学校・幼稚園施設の整備	学校・幼稚園施設の整備	2	学校通学関係事業	教育政策課
						安全・安心な学校づくりの推進	安全・安心な学校づくりの推進	3	八代市学校・子ども教育広域基金事業	教育政策課
			郷土の文化・伝統に親しむまちづくり	郷土の文化・伝統に親しむまちづくり	文化創造に貢献する博物館づくり	学校・家庭・地域の協働	学校・家庭・地域の協働	9	学校施設整備基金事業	教育施設課
						生涯学習し施設と連携した生涯学習推進体制の整備	生涯学習し施設と連携した生涯学習推進体制の整備	10	学校等施設管理事業	教育施設課
			郷土の文化・伝統に親しむまちづくり	郷土の文化・伝統に親しむまちづくり	文化創造に貢献する博物館づくり	学校・家庭・地域の協働	学校・家庭・地域の協働	11	学校等施設整備事業	教育施設課
生涯学習し施設と連携した生涯学習推進体制の整備	生涯学習し施設と連携した生涯学習推進体制の整備	12				学校等非構造部材耐震化事業	教育施設課			
郷土の文化・伝統に親しむまちづくり	郷土の文化・伝統に親しむまちづくり	文化創造に貢献する博物館づくり	学校・家庭・地域の協働	学校・家庭・地域の協働	14	学校・家庭・地域の連携協力推進事業	生涯学習課			
			生涯学習し施設と連携した生涯学習推進体制の整備	生涯学習し施設と連携した生涯学習推進体制の整備	15	青少年体験活動事業	生涯学習課			
郷土の文化・伝統に親しむまちづくり	郷土の文化・伝統に親しむまちづくり	文化創造に貢献する博物館づくり	学校・家庭・地域の協働	学校・家庭・地域の協働	16	図書館管理運営事業	生涯学習課			
			生涯学習し施設と連携した生涯学習推進体制の整備	生涯学習し施設と連携した生涯学習推進体制の整備	20	博物館展示資料調査事業	博物館			
郷土の文化・伝統に親しむまちづくり	郷土の文化・伝統に親しむまちづくり	文化創造に貢献する博物館づくり	学校・家庭・地域の協働	学校・家庭・地域の協働	19	博物館特別展覧会事業	博物館			
			生涯学習し施設と連携した生涯学習推進体制の整備	生涯学習し施設と連携した生涯学習推進体制の整備	13	自治公民館再建支援事業(豪雨災害)	生涯学習課			

(2) 個別票

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

1	寄宿舎管理事業	……………	P. 15
2	学校通学関係事業	……………	P. 17
3	八代市学校・子ども教育応援基金事業	……………	P. 19
4	新型コロナウイルス感染症対策事業 (小・中・支援学校端末整備)	……………	P. 21
5	特別支援教育推進事業	……………	P. 23
6	学校教材充実事業	……………	P. 25
7	学校体育振興事業	……………	P. 27
8	I C T授業サポート事業	……………	P. 29
9	学校施設整備基金事業	……………	P. 31
10	学校等施設管理事業	……………	P. 33
11	学校等施設整備事業	……………	P. 35
12	学校等非構造部材耐震化事業	……………	P. 37
13	自治公民館再建支援事業 (豪雨災害)	……………	P. 39
14	学校・家庭・地域の連携協力推進事業	……………	P. 41
15	青少年体験活動事業	……………	P. 43
16	図書館管理運営事業	……………	P. 45
17	特別支援教育相談事業	……………	P. 47
18	不登校児童生徒の適応指導事業	……………	P. 49
19	博物館特別展覧会事業	……………	P. 51
20	博物館展示資料調査事業	……………	P. 53

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No

1

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 教育政策課・学校管理係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	寄宿舎管理事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	2	学校・幼稚園の教育力を高めます
			基本方針	8	学びを支える教育環境の整備
			主な施策	4	就園、就学等への支援
事務事業の概要 (全体事業の内容)	久連子、椎原、仁田尾、葉木、樺木及び柿迫(板木、保口)に住所を有する生徒及び保護者の遠距離通学による負担を軽減するため、寄宿舎の管理運営を行う。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

泉中学校区内の遠隔地(泉町久連子、椎原、仁田尾、葉木、樺木、及び柿迫の板木・保口地区)に居住する生徒3人(全て樺木地区居住)が安心安全な学校生活が送れるよう寄宿舎(石楠花寮)を開設し、入寮中の朝食・夕食の提供、寮生活での見守り、自宅と寮(又は学校)間の送迎、寄宿舎の維持管理を行った。

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		9,896	11,823	11,823
財源内訳	国県支出金	481	568	568
	地方債			
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	257	531	531
	一般財源(特別会計→事業収入)	9,158	10,724	10,724

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
11,103	9,896	481	0	257	9,158	0	1,207

<主要な施策の概要>

<財源内訳>

会計年度任用職員給料、手当等 (舎監、指導員、調理員、支援員 各1名)	6,130	○国県支出金	
送迎用車両リース料、運転業務委託、ガソリン代	1,602	へき地児童生徒援助費補助金(寄宿舎居住費)(1/2)	444
賄材料費、食糧費	914	へき地児童生徒援助費補助金(寄宿舎設備購入費)(1/2)	37
等		○その他特定財源	
		寄宿舎給食利用料(職員分)	257

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	開設日数	日	計画	210	209	183	209
			実績	210	193	203	209	
②			計画					
			実績					
成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	入舎生徒数	人	計画	2	4	3	3
			実績	2	4	3	3	
②			計画					
			実績					

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	入舎している生徒は年々減少しているが、運営管理費(管理費、人件費など)は減少することはない。寮に従事する職員は会計年度任用職員で雇用しているが、調理員は朝早くからの勤務であり、また、舎監は 寝泊まりもあり人材確保に苦慮している。 今後、入寮生は2~4人で推移するので、運営方法について検討が必要である。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3 (Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	自宅から毎日の通学はできないので、今後も生徒たちがいる間は、安心安全な学校生活が送れるよう、維持管理を継続する。
今後の方向性	市による実施(現行どおり)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No

2

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 教育政策課・学校管理係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	学校通学関係事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	2	学校・幼稚園の教育力を高めます
			基本方針	8	学びを支える教育環境の整備
			主な施策	4	就園、就学等への支援
事務事業の概要 (全体事業の内容)	遠距離等により通学困難な児童生徒の支援のため、スクールバス運行及び通学に要する経費の補助を行い、安全安心な通学環境を確保する。 ・スクールバス関係経費 (運転手給与、運行業務委託、スクールバス等借上、安全運転管理者関係経費、燃料費等) ・遠距離通学費補助金等交付 (通学用自転車購入費補助、JR・乗合タクシー・路線バス定期券購入費補助)				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

- スクールバス等の運行
 - ・金剛小、八千把小、八竜小、鏡小、文政小、東陽小、泉小中、支援学校の遠距離通学児童生徒数に応じてバスやワゴン車を配置し、会計年度任用職員の雇用又は運行業務委託による運行を実施。二見小はタクシー借り上げで実施。宮地小は乗合タクシーを利用して実施。
 - ・令和2年7月豪雨の影響で、坂本中学の生徒も八竜小スクールバスに乗車。ルートを大幅に変更して運行。また、坂本中で部活動を行う生徒の帰宅便としてスクールバスを追加で運行。
 - ・支援学校スクールバスの感染症対策として、スクールバスを2台増便して運行。(R3.3~)
- 遠距離通学費補助金交付
 - ・八中、坂本中、東陽中に通学する片道6km以上の生徒及び宮地小に通学する東町在住の児童が対象。
 (通学用自転車購入補助)上限25,000円 (乗合タクシー定期券購入補助)通学経費

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		92,774	86,970	95,470
財源内訳	国県支出金	9,700	10,200	10,200
	地方債	7,300		8,500
	その他特定財源(特別会計→繰入金)			
	一般財源(特別会計→事業収入)	75,774	76,770	76,770

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
101,079	92,774	9,700	7,300	0	75,774	0	8,305
<主要な施策の概要>				<財源内訳>			
○小学校 49,933				○国庫支出金			
運行業務委託料		31,788		学校保健特別対策事業費補助金(1/2)		4,850	
運転手賃金・保険料		4,848		(スクールバス感染症対策)			
八竜小スクールバス購入等		7,681		新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金		4,850	
○中学校 8,185				○地方債			
運転手賃金・保険料		5,036		スクールバス購入事業(八竜小)		7,300	
遠距離通学費補助金		589					
生徒送迎業務委託(坂本中部活動便)等		894					
○支援学校 34,656							
運行業務委託料		21,725					
運行業務委託(コロナ対策増便分)等		9,700					

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	年間スクールバス運行日数 (小・中学校)	日	計画	215	217	215	216
			実績	215	202	202	202	
②	年間スクールバス運行日数 (支援学校)	日	計画	203	201	210	206	
			実績	203	190	189	194	
成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	乗車児童生徒数	人	計画	322	313	335	306
			実績	322	310	335	306	
②	定期券及び通学用自転車購入費補助対象生徒数	人	計画	35	36	30	11	
			実績	35	34	28	11	

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	<ul style="list-style-type: none"> ・八竜小の老朽化したスクールバスを買替え、児童輸送時の安全性の向上に努めた。 ・令和2年7月豪雨災害により被災した八竜小、坂本中の児童生徒を避難先等から学校までスクールバスにて送迎を行った。また、坂本中の部活動便を追加運行した。 ・八代支援学校の新型コロナウイルスの感染防止対策として、スクールバスを2台増便し、スクールバス1台あたりの乗車率の低減を図った。 ・市町村合併前より存在した遠距離通学費補助の要綱、規則を1つにまとめ統一化を図った。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

③ (Check) を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・八竜小、坂本中の児童生徒の通学手段を確保するため、状況に合わせて柔軟に運行ルートを変更する等、関係機関との連携に努める。 ・令和4年度も八代支援学校の新型コロナウイルスの感染対策として、スクールバスの2台増便体制を継続する。 ・老朽化した車両の買い替えを含め、今後ともスクールバス運行等の児童生徒の安全安心な通学環境を維持するとともに、地域公共交通網の再編や児童生徒数の増減等、状況の変化に応じた効率的な運営方法について、継続して検討を行う。 ・坂本中学校の遠距離通学補助対象者についてスクールバスでの送迎を含め検討を行う。
今後の方向性	市による実施(現行どおり)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No

3

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 教育政策課・教育政策係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	八代市学校・子ども教育応援基金事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	2	学校・幼稚園の教育力を高めます
			基本方針	8	学びを支える教育環境の整備
			主な施策	5	学校教育を支援する基金の創設
事務事業の概要 (全体事業の内容)	地域とともに八代の未来を担う児童、生徒の学びを支援するため、「八代市学校・子ども教育応援基金」を創設し、市内外からの寄附を募り、市も必要に応じ寄付に加えて基金へ積み立て、学校教育の充実・振興に係る事業に活用する。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

- ・基金事業の周知及び寄附募集のための広報を行う。
広報やつしろ、市ホームページ、FMやつしろ、リーフレット(ふる里情報発信誌「やつしろの風」)に同封、仮設庁舎(令和4年2月14日より新庁舎)・各支所・コミュニティセンターへ設置。
- ・学校等の要望を踏まえ、教育委員会事務局で次年度の基金事業案を検討・決定し、予算要求を行う。
- ・基金へ繰り入れ、取り崩し等の会計処理を行う。

コスト推移	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)	5,272	1,101	1,101
財源内訳	国県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	5,272	1,101
	一般財源(特別会計→事業収入)	0	0

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
6,022	5,272	0	0	5,272	0	750	

<主要な施策の概要>

<財源内訳>

リーフレット印刷製本費	72	○その他の特定財源	
基金積立金	5,200	八代市学校・子ども教育応援基金繰入金	72
		八代市学校・子ども教育応援基金利子	20
		教育振興費寄附金	5,180
<p><寄附の状況></p> <p>個人 7件 150,000円</p> <p>企業・団体 2件 5,030,000円</p>			
<p><基金取り崩しの状況> (充当事業)</p> <p>※令和3年度よりリーフレット印刷製本費含む</p> <p>令和2年度 8事業 1,292,124円</p> <p>令和3年度 11事業 1,244,601円</p> <p>(詳細は別紙資料)</p>			
<p><基金残高></p> <p>R4.5.31現在 17,258,059円</p>			

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	寄附受付件数	件	計画	20	20	20	20
				実績	10	13	17	9
②	リーフレット配付施設数	カ所	計画	6	6	26	26	
			実績	6	6	26	26	

成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	寄附金額	千円	計画	1,000	1,000	1,000	1,000
				実績	5,813	836	725	5,180
②			計画					
			実績					

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	令和3年度は、前年度より寄附受付件数が減少したものの、大口の寄附があったため寄附金額は大幅に増加した。本基金は、平成30年3月に創設され、運用4年目を迎えたが、本事業の継続実施を目指し、引き続き広報に注力していく必要がある。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3 (Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・ふる里情報発信誌「やつしろの風」へのリーフレット同封については、毎年、八代市出身者の方々からの温かい支援が寄せられており、今後もチラシの作成や封入のための予算の確保に努めていく。 ・基金の活用方法については、児童、生徒の学びをきめ細やかに支援できるよう、学校・幼稚園の現場から要望を吸い上げ、丁寧に事業案の検討・決定を行うとともに、実現に向けた次年度の予算確保に取り組む。 ・基金事業の運用については、事業の進捗状況等を踏まえ、必要な見直しを図っていく。
今後の方向性	市による実施(現行どおり)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No

4

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 教育政策課・ICT教育推進係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	新型コロナウイルス感染症対策事業 (小・中・支援学校端末整備)	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	2	学校・幼稚園の教育力を高めます
			基本方針	8	学びを支える教育環境の整備
			主な施策	2	学校ICT 環境の整備
事務事業の概要 (全体事業の内容)	国のGIGAスクール構想に基づき小中支援学校に1人1台端末(パソコン)を整備し、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を整備する				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

- ◆八代市立支援学校高等部タブレット端末購入に「GIGAスクール構想」に伴う機器類を整備した。
①タブレット:13台 ②ジョイスティックマウス:1台
- ◆市内小中支援学校(計40校)に不足する教師用端末及びオンライン授業に必要な機器類を整備した。
①教師用タブレット:340台 ②モニター812台 ③アクセスポイント286台 ④イヤホン11,264個

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		83,381	0	0
財源内訳	国県支出金	82,863		
	地方債			
	その他特定財源(特別会計→繰入金)			
	一般財源(特別会計→事業収入)	518		

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
89,474	83,381	82,863	0	0	518	0	6,093

<主要な施策の概要>

<財源内訳>

<主要な施策の概要>		<財源内訳>	
備品購入費		【新型コロナウイルス感染症対策分】	
タブレット端末、モニター、アクセスポイント 等	79,964	○国庫支出金	
		公立学校情報機器整備費補助金(支援学校)(10/10・定額)	620
委託料		新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金	41,702
タブレット保守	243	○県支出金	
		新型コロナウイルス感染症対応総合交付金(1/2)	40,541
需用費(消耗品費)	3,174		
イヤホン			

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	児童生徒用タブレットの台数	台	計画	—	1,461	9,301	9,301
				実績	—	1,461	9,301	9,277
②	教師用タブレットの台数	台	計画	—	—	—	814	
			実績	—	—	—	814	

成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	児童生徒用タブレットの整備率	%	計画	—	45	100	100
				実績	—	45	100	100
②	教師用タブレットの台数	%	計画	—	—	—	100	
			実績	—	—	—	100	

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	新たに整備対象となった支援学校高等部生徒へのタブレット整備を完了した。 さらに、教師1人1台端末や学校内の無線化を整備することにより、ICT授業等のさらなる効率化を図った。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3(Check)を踏まえた今後の方向性 や改善の取組等	今後は、ICT教育を加速させるために大型提示装置等の入替や導入機器の保守及び効率的な運用・入替作業を行い、Edtechを推進して行く。
今後の方向性	完了(終了)
市による実施(規模拡充)の場合で、 予算の増額が伴う場合は、財源の考 え方について記載してください	

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No

5

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 学校教育課・教育支援係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	特別支援教育推進事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	1	子どもたち一人一人の「生きる力」を育みます
			基本方針	5	特別支援教育の推進
			主な施策	1	支援体制の充実
事務事業の概要 (全体事業の内容)	発達障がいを含む障がいのある幼児児童生徒及び特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の能力や可能性を伸ばし、自立と社会参加に向けた主体的な取組を支援するため、福祉・医療・学校・行政等の関係者で構成する特別支援連携協議会等を設置し、総合的な支援体制を目指す。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

- ・連携協議会を設置し体制の整備及び機能的なネットワークの在り方について検討する。
- ・市内の中学校区をブロック化し、ブロック単位で特別支援教育の研修及び情報交換会を開催する。またブロックを担当する巡回相談員を指名する。
- ・各学校・園へ個別相談に応じる学校関係専門員(巡回相談員)及び専門家チームを派遣する。(随時)
- ・各校の特別支援教育コーディネーター(年2回)、特別支援教育支援員に対する研修会(年3回)を実施する。
- ・幼児児童生徒の適切な学びの場を検討するための専門的な審議を行う就学指導委員会を年4回実施する。(6月・8月・11月・12月)
- ・就学前の保護者を対象とした特別支援教育就学説明会を年2回実施する。(4月・10月)

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		1,052	1,580	1,580
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	0	0	0
	一般財源(特別会計→事業収入)	1,052	1,580	1,580

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
1,582	1,052	0	0	0	1,052	0	530

<主要な施策の概要>

<財源内訳>

報償費	164	一般財源	1,052
委員等謝礼(就学指導委員会)			
旅費	21		
費用弁償(医師等)			
需用費	25		
負担金補助及び交付金	842		
協議会等負担金(手をつなぐ育成会)			

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	各学校・園への巡回相談員の派遣回数	回	計画	30	30	30	30
実績				22	38	3	3	
ブロック単位における特別支援教育に関する研修会及び情報交換会		回	計画	25	25	25	25	
			実績	28	23	5	19	

成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①			計画				
実績								
②				計画				
				実績				

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	成果指標なし
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでブロックを担当する巡回相談員は担任等の業務と並行して行っていたため、個別の巡回を行うことがほとんどできなかった。特別支援学校のコーディネーター及び教育サポートセンターの特別支援教育アドバイザーも個別巡回にあっていたが、コロナ禍等であまり実施できなかった。 ・令和2年度事業内容の多くが中止や延期を余儀なくされ、令和3年度はできるだけ実施を試みた。中止したものはごく一部であるが、集合開催は難しく、多くがオンラインの開催となった。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3 (Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談については、ブロックを担当する巡回相談員をブロック相談員とし、個別の巡回は行わずブロックの研修会等の助言を行うこととした。個別の巡回相談については特別支援学校のコーディネーター及び教育サポートセンターの特別支援教育アドバイザーで行うこととし、役割の明確化を図った。 ・全体で行う各研修会や会議、各ブロックで行う研修会等、集合しての開催が難しい面もあるが、特別支援教育の活性化目指しオンラインの活用も含め開催方法・内容をより検討し実施する。 ・就学相談に関して、地域療育センター・保健センター・療育事業所等と連携を取り進めている。今後も継続して進めていく。
今後の方向性	市による実施(現行どおり)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No

6

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 学校教育課・指導係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	学校教材充実事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	1	子どもたち一人一人の「生きる力」を育みます
			基本方針	3	確かな学力の育成
			主な施策	1	「学力向上やつしろプラン」の共通実践
事務事業の概要 (全体事業の内容)	・学力調査等を実施し実態把握を行うとともに、各学校の学力向上検証改善サイクルを確立し、教師の指導改善と児童生徒の学力充実を図る。 ・教師用の指導書及び教師用デジタル教科書を整備することで、授業における指導の充実、教材の工夫を図る。 ・全ての学校を訪問し、学校経営や授業づくりについて指導・助言を行う。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

知能テスト・標準学力調査を実施した。
 総合的な学習の時間をはじめ、特色ある学校づくりを推進した。
 教師用教科書や指導書の整備を進め、教材の充実を図った。
 学校訪問を実施し、学校経営について指導・助言を行った。

コスト推移	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込	
総事業費 (単位:千円)	60,606	21,013	27,621	
財源内訳	国県支出金	406	0	0
	地方債	0	0	0
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	20,357	263	10,753
	一般財源(特別会計→事業収入)	39,843	20,750	16,868

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
63,422	60,606	406	0	20,357	39,843	0	2,816

<主要な施策の概要>

<財源内訳>

◆小学校 8,322	7,476	○県支出金	
知能テスト及び標準学力検査等	159	中学校英語検定チャレンジ事業補助(1/3)	406
総合的な学習の時間 講師謝礼・消耗品費	645	○その他特定財源	
協議会等負担金(へき地校教育研究連盟)・八代市教育研究会補助金等	42	ふるさと八代元気づくり応援基金繰入金	19,272
処理業務委託(産業廃棄物)	65	八代市学校・子ども教育応援基金繰入金	1,066
◆中学校 52,284	7,943	英検準会場教室等使用料	19
総合的な学習の時間 講師謝礼・消耗品費	26,000		
知能テスト及び標準学力検査等	100		
教科書採択に伴う教師用教科書・指導書	438		
処理業務委託(産業廃棄物)	17,738		
協議会等負担金(へき地校教育研究連盟)・八代市教育研究会補助金等			
教科書採択に伴う教師用デジタル教科書			
【ふるさと八代元気づくり応援基金繰入金】			
(中) 中学校英検補助金	1,534		
(中) 教科書採択に伴う教師用デジタル教科書	17,738		
【八代市学校・子ども教育応援基金繰入金】			
(小) ICT推進モデル校(有佐小)	100		
(小) QUTテスト拡大事業	286		
(高田小、日奈久小、鏡小、八竜小、太田郷小)			
(中) QUTテスト拡大事業	77		
(第五中、第六中、坂本中)			
(中) GTEC Core	603		

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	中学校英検補助金を活用して英検を受験した中学生（全学年）の割合	%	計画	33.3	33.3	33.3	33.3
				実績	16.6	16.2	14.8	20.3
②			計画					
			実績					

成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①			計画				
				実績				
②			計画					
			実績					

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	成果指標なし
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	各学校において知能テストや標準学力検査、QUテストの結果を授業改善等に生かすとともに、総合的な学習の時間の実践により、特色ある学校づくりを推進する。また、学校訪問等において学力の実態に基づき指導・助言を行う等、学校教育を充実させるものであるため、成果指標は設定していない。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3 (Check) を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度から知能テスト、標準学力テストを廃止し、新たに八代市学力調査、質問紙調査(i-check)を実施する。各学校では、結果をもとに学力向上検証改善サイクルを確立し、教師の指導改善と児童生徒の学力充実に回り、教育委員会では学校訪問で指導・助言を行っていく。 中学3年生のCEFRA1レベル(英検3級程度)以上の取得率が高い他自治体の取組を参考に、現在の中学校英検補助金を半額補助から全額補助へと拡充することを検討していきたい。
今後の方向性	市による実施(規模拡充)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	<ul style="list-style-type: none"> QUテスト拡大事業、GTEC Coreの廃止 引き続き県の補助金や「ふるさと八代元気づくり応援基金繰入金」を活用して財源の確保に努める。

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No

7

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 学校教育課・保健体育係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	学校体育振興事業	施策の体系 (第2期八代市教育振興基本計画における位置づけ)	基本目標	1	子どもたち一人一人の「生きる力」を育みます
			基本方針	4	健やかな体の育成
			主な施策	2	適正で魅力ある運動部活動の充実
事務事業の概要 (全体事業の内容)	(小学校) スポーツ活動を通じて体力及び運動能力を高めるとともに、心身の健康の保持・増進を図ることを目的に、小学校体育連盟主催の大会への児童輸送費や小学校体育連盟後援の大会会場使用料等を補助する。 (中学校) 体育・スポーツ活動を通じて生徒の健全育成を図り、体力及び運動能力を高めるとともに、中学校体育活動の振興に寄与することを目的に、以下の事務事業を行う。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

- (小学校)
- ・八代小学校体育連盟主催の陸上競技大会への児童輸送費を支出する。
 - ・八代小学校体育連盟に補助金を支出する。
- (中学校)
- ・八代中学校体育連盟駅伝競走大会会場へ学校から生徒を輸送する。
 - ・八代中学校体育連盟主催大会の大会会場使用料を支出する。
 - ・八代中学校体育連盟に補助金を支出する。
 - ・県、九州、全国中学校体育大会出場者への旅費を補助する。

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		9,946	16,269	16,269
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	0	11,000	11,000
	一般財源(特別会計→事業収入)	9,946	5,269	5,269

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
11,940	9,946	0	0	0	9,946	0	1,994

<主要な施策の概要>

<財源内訳>

<主要な施策の概要>		<財源内訳>	
【中学校】		一般財源	
八代市中学校部活動大会等出場補助金	8,058		
八代中学校体育連盟補助金	1,482		
会場使用料 ※コロナ禍により支援学校運動会中止	137		
自動車等借上料(バス) ※キャンセル料	154		
【小学校】			
自動車等借上料(バス) ※コロナ禍により陸上記録会中止	0		
八代小学校体育連盟補助金	115	9,946	

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	中学校体育連盟主催大会（夏季総体、陸上競技大会、駅伝競走大会）	回	計画	3	3	3	3
				実績	3	3	1	2
②	八代小体連陸上競技大会における児童輸送	回	計画	1	1	1	1	
			実績	1	1	0	0	

成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	県・九州・全国中体連大会出場補助金の支給	%	計画	100	100	100	100
				実績	100	100	100	100
②	八代小学校体育連盟補助金	%	計画	100	100	100	100	
			実績	100	100	100	100	

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大会の中止があったため、中止となった大会があったが、小中学校体育連盟の活動を支援するため、補助金の支出においては計画通り実施できた。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3 (Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	現行通り実施していくが、コロナ禍においても教育活動を進めていくために、児童生徒の体力・運動能力の向上につながる支援を行い、健全育成に寄与していく必要がある。
今後の方向性	市による実施(現行どおり)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No

8

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 学校教育課・指導係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	ICT授業サポート事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	1	子どもたち一人一人の「生きる力」を育みます
			基本方針	3	確かな学力の育成
			主な施策	1	「学力向上やつしろプラン」の共通実践
事務事業の概要 (全体事業の内容)	・ICT機器の効果的な活用方法を教職員が習得することを通して、教職員がICT機器を活用した学習指導の工夫改善を行うことで、児童生徒の学習意欲を喚起し、学力の向上を図る。そのために、ICT授業サポーターによる小中学校への巡回訪問支援を行う。 ・ICTを活用した教育の質の向上に向けて、学校におけるICT環境の適切な整備と効果的な活用を一層促進するため、ICT教育推進アドバイザーによるICTを活用した指導方法、ICT活用計画の全体方針の策定支援及びICT活用に関する専門的な助言や研修支援等を行う。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

- ・ICT授業サポーターによる小中学校への巡回支援及びヘルプデスクによる遠隔支援の実施(授業、校務、研修等におけるICT支援)
- ・ICT教育推進アドバイザーによる「八代市EdTech推進基本方針」及び「八代市EdTech推進計画」への助言
- ・ICT教育推進アドバイザーによる保護者・教職員等を対象とした教育講演会の実施

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		36,279	42,112	0
財源内訳	国県支出金	11,425	0	
	地方債			
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	12,377	41,633	
	一般財源(特別会計→事業収入)	12,477	479	

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
37,251	36,279	11,425	0	12,377	12,477	0	972

<主要な施策の概要>

<財源内訳>

委託料 (ICT授業サポート業務委託)	36,177	○国庫支出金	
謝礼 (ICT教育推進アドバイザー)	50	公立学校情報機器整備費補助金	5,712
費用弁償 (ICT教育推進アドバイザー)	52	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金	5,713
		○その他特定財源	
		ふるさと八代元気づくり応援基金繰入金	12,377

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①			計画				
				実績				
	②			計画				
実績								

成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	①	令和5年度末までに本市立小・中学校の学校情報化優良校認定100%達成	%	計画					50%
				実績					55%
	②			計画					
実績									

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	令和5年度末までに100%達成を最終目標とし、令和3年度中に50%、令和4年度中に80%の達成を中間目標としている。初年度である令和3年度は、本市立小中学校38校中21校が優良校の認定を受けた。今後、学校情報化の取組がなかなか進んでいない学校への支援を充実させていくことが課題である。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3 (Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育推進校を中心に学校情報化優良校認定に向けた取組を支援し、好事例を本市全体で情報共有していく。 ・ICT授業サポーター及びヘルプデスクによる各学校への支援を充実させていく。 ・ICT教育推進アドバイザーから、本市のICT教育の更なる推進に向けた指導・助言を受け、今後の施策に生かす。 ・令和4年度からICT学習支援ツール「スタディサプリ」を小学4年生から中学校3年生に導入し、基礎学力の向上を図る。 ・令和4年度から教育政策課に新設したICT教育推進係に業務を移管し、本市のICT教育の更なる推進を図っていく。
今後の方向性	市による実施(規模拡充)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	引き続き「ふるさと八代元気づくり応援基金繰入金」を活用して財源の確保に努める。

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No

9

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 教育施設課・建築係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	学校施設整備基金事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	2	学校・幼稚園の教育力を高めます
			基本方針	9	安全・安心な学校づくりの推進
			主な施策	3	学校・幼稚園施設の整備
事務事業の概要 (全体事業の内容)	八代市が設置する学校施設の整備に要する経費の財源に充てるため、「八代市学校施設整備基金」に積み立てを行うもの。主な基金財源は、国庫補助を受けて整備した学校(廃校)を処分制限期間内に民間事業者等へ有償で財産処分(貸与・譲渡等)する場合に発生する国庫納付金相当分の積立金や基金利子収入、その他財産収入などである。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

八代市学校施設整備基金へ積み立てを行う。

(事業内容・事業費)

・積立金: 利子相当額: 9千円、その他財産収入: 3,860千円 (学校分収造林立木売払収入: 旧種山小、中)

・基金積立総額: 5,941,990円 (R4.4.30時点)

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位: 千円)		3,869	10	10
財源内訳	国県支出金			
	地方債			
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	3,869	10	10
	一般財源(特別会計→事業収入)			

主要な施策の成果

(単位: 千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
3,869	3,869	0	0	3,869	0	0	

<主要な施策の概要>

<財源内訳>

学校施設整備基金事業	3,869					
積立金		3,869				
				○その他特定財源	3,869	
				学校施設整備基金利子		9
				立木売払収入		3,860

活動指標	指標名		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	①	学校施設整備基金に係る財産処分校数	校	計画	1	2	2	1
				実績	1	2	2	1
②			計画					
			実績					

成果指標	指標名		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	①	基金金額	千円	計画	2,073	2,073	2,074	2,474
				実績	2,075	2,080	2,083	5,942
②			計画					
			実績					

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	平成27年度の「八代市学校施設整備基金」創設に伴い開始した事業であり、基金の運用実績はなく、近年は主に基金利子収入による基金積立を行っている。令和3年度においては、その他財産収入として学校分収林の立木売払金により3,860千円の収入があったことから基金へ積立を行った。成果目標は概ね順調であると思われる。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3 (Check) を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	国の公立学校施設整備補助金等の交付を受けて整備した学校が廃校となり、当該施設を有償貸与するものについては、文部科学省の財産処分手続きに基づき、国庫納付金相当額を基金に積み立てることとなっている。しかしながら、コロナ禍の影響などから民間事業者の有償貸与実績が無い状況である。関係部局と連携し、廃校施設の民間事業者への有償貸与による有効活用を図り、基金財源の確保に努めていく。また、その他財産収入などの臨時的な財源確保について、財政部局への働きかけや情報収集を行う。
今後の方向性	市による実施(現行どおり)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No 10

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 教育施設課・建築係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	学校等施設管理事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	2	学校・幼稚園の教育力を高めます
			基本方針	9	安全・安心な学校づくりの推進
			主な施策	3	学校・幼稚園施設の整備
事務事業の概要 (全体事業の内容)	学校等施設について、消防用設備点検、貯水槽清掃、電気設備や給水設備等の機器点検を行う。また、樹木剪定や白蟻他の害虫駆除等の管理を行う。更に、修繕・補修用の建築資材等の原材料の購入及び学校用敷地の借地料や排水路等の使用料の支払を行う。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

学校等施設について、法令に基づく定期点検等の他、施設設備を維持するための管理を行った。

(事業内容・事業費)

- ・修繕料(八代小GHP): 小学校1件 176千円
- ・手数料(消防点検、貯水槽清掃等): 小学校24件、中学校16件、支援学校5件、幼稚園7件 24,079千円
- ・委託料(樹木剪定、電気設備点検等): 小学校29件、中学校26件、支援学校6件、幼稚園8件 39,615千円
- ・使用料及び賃借料(土地使用料等): 小学校9件、中学校10件 6,844千円
- ・原材料費: 小学校38件、中学校24件、支援学校2件、幼稚園4件 2,597千円

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		73,311	75,978	75,978
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	595	592	596
	一般財源(特別会計→事業収入)	72,716	75,386	75,382

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
75,285	73,311	0	0	595	72,716	0	1,974

<主要な施策の概要>

<財源内訳>

学校等施設管理事業 73,311		<財源内訳>		
小学校施設管理事業 37,283		○その他特定財源 595		
修繕料(八代小ガス空調機器)	176	電柱占用料(小学校)		340
手数料(消防用設備点検、貯水槽清掃等)	13,413	地震計占用料(小学校)		5
委託料(樹木剪定、電気設備点検等)	20,440	小学校敷地使用料(小学校)		1
使用料及び賃借料(土地使用料等)	1,855	電柱占用料(中学校)		216
原材料費	1,399	電柱占用料(特別支援学校)		9
中学校施設管理事業 31,765		電柱占用料(幼稚園)		24
手数料(消防用設備点検、貯水槽清掃等)	9,729			
委託料(樹木剪定、電気設備点検等)	16,047			
使用料及び賃借料(土地使用料等)	4,989			
原材料費	1,000			
特別支援学校施設管理事業 2,239				
手数料(消防用設備点検、貯水槽清掃等)	502			
委託料(樹木剪定、電気設備点検等)	1,638			
原材料費	99			
幼稚園施設管理事業 2,024				
手数料(消防用設備点検、貯水槽清掃等)	435			
委託料(樹木剪定、給水設備点検等)	1,490			
原材料費	99			

活動指標	指標名	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	点検等実施回数 (消防設備、防火設備、給水設備、貯水槽、プールろ過機、電波障害施設、電気設備ほか 令和3年度より浄化槽とエレベーターの点検が追加)	回	計画	960	848	837
実績				840	881	913	2,013
②	樹木剪定、害虫駆除件数	件	計画	19	19	19	19
			実績	27	17	20	29

成果指標	指標名	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①			計画			
実績							
②			計画				
			実績				

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	成果指標なし
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	法令等に基づく定期点検等を行っており、その点検結果に基づいて、別事業である学校等施設整備事業にて修繕、改修等を行っている。令和3年度より教育政策課から浄化槽及びエレベーターの点検等の事務移管がされたため点検回数が2倍以上に増加している。引き続き、施設設備等の不具合を早期に発見するため、法定点検等を確実に実施する必要がある。加えて、学校敷地内の樹木が高木化、老木化しているため、その管理についても適切に行う必要がある。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3 (Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	施設及び樹木の管理については、法令に基づく定期点検等の結果や学校からの要望に対応しながら引き続き良好な教育環境の維持管理に努める。
今後の方向性	市による実施(現行どおり)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No 11

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 教育施設課・建築係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	学校等施設整備事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	2	学校・幼稚園の教育力を高めます
			基本方針	9	安全・安心な学校づくりの推進
			主な施策	3	学校・幼稚園施設の整備
事務事業の概要 (全体事業の内容)	小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園の施設について、安全・安心で快適な教育環境を提供するため、緊急対応が必要な修繕や機能維持及び向上のための施設整備を行う。また、平成29年度から大規模災害時に避難所となる学校施設について、避難所として必要な防災機能の強化・充実を図るため、通路のバリアフリー化や屋外トイレ、屋外通路照明の整備などを行う。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

安全・安心で快適な教育環境を提供するため、機能維持及び向上について施設の修繕、改修などを行う。

(事業内容・事業費)

・修繕料: 小学校130件、中学校85件、支援学校7件、幼稚園22件 52,777千円

・委託料: 支援学校1件 968千円

・工事請負費: 小学校14件、中学校14件、幼稚園1件 117,046千円

・公有財産購入費: 中学校1件 1,003千円 他

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		171,842	181,660	335,608
財源内訳	国県支出金	0	0	32,890
	地方債	105,900	118,600	226,500
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	1,795	3,230	3,230
	一般財源(特別会計→事業収入)	64,147	59,830	72,988

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
185,406	171,842	0	105,900	1,795	64,147	9,000	4,564
<主要な施策の概要>				<財源内訳>			
学校等施設整備事業 171,842		<財源内訳>					
小学校施設整備事業 82,838		○地方債 105,900					
麦島小普通教室棟屋上防水改修工事		17,603		小学校施設整備事業 49,000			
宮地小プールろ過機更新工事 他142件		65,235		中学校施設整備事業 55,800			
中学校施設整備事業 82,116		幼稚園施設整備事業 1,100					
一中技術室改修建築工事		23,573		○その他特定財源 1,795			
鏡中体育館2階床改修工事 他100件		58,543		日本中央競馬会事業所周辺環境整備寄付金 1,795			
特別支援学校施設整備事業 1,667							
八代支援学校陶芸教室棟改築基本設計		968					
八代支援学校管理教室棟トイレ床修繕 他6件		699					
幼稚園施設整備事業 5,221							
太田郷幼保育室床改修工事		1,239					
麦島幼遊戯室天井修繕 他21件		3,982					
(繰越明許費 9,000) 令和3年工事-令和4年工事【当初予算分】							
小学校施設整備事業 9,000							
泉八小スロープ設置工事		9,000					

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	施設整備依頼件数	件	計画		400	400	400
実績					384	406	454	428
②				計画				
				実績				

成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	施設整備依頼の実施率	%	計画		80	80	80
実績					88	80	74	81
②				計画				
				実績				

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	学校等施設は、老朽化が進んできており、学校等から修繕依頼や改修要望の施設整備依頼が数多く寄せられている状況である。また、近年の多様化する教育活動への対応やバリアフリー化、環境負荷低減のための省エネルギー対策等の社会的要請にも応え、教育環境の質的向上を図る必要がある。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

③(Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	学校等施設の老朽化が進む中、大規模な改修や改築が必要な建物や設備が増加してきている。今後は、小学校の35人学級への対応や誰もが利用しやすい学校施設とするためのバリアフリー化、省エネ対策としての照明器具LED化など必要な施設整備を計画的に進めていく。
今後の方向性	市による実施(規模拡充)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	国の学校施設環境改善交付金や地方債を活用する。

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No 12

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 教育施設課・建築係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	学校等非構造部材耐震化事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	2	学校・幼稚園の教育力を高めます
			基本方針	9	安全・安心な学校づくりの推進
			主な施策	3	学校・幼稚園施設の整備
事務事業の概要 (全体事業の内容)	地震時における児童生徒等の安全及び災害時の避難所機能を確保するため、小学校、中学校、支援学校、幼稚園の非構造部材(外壁、吊り天井、照明器具、ガラスなど)について、落下防止対策などを行い耐震化を図るもの。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

小学校、中学校外壁の劣化及び損傷などの状況を把握するため、点検・調査を実施した。また、小・中学校校舎(図書室、ホール等)の非構造部材耐震改修工事(天井材、照明器具の落下防止)を実施し、地震時における非構造部材の耐震化を図った。

(事業内容・事業費)

・委託料:小学校4校(太田郷小、鏡小、龍峯小、東陽小)16,221千円、中学校1校(四中)4,895千円 他

・工事請負費:小学校5校(太田郷小、弥次分校、八代小、麦島小、昭和小)60,037千円、中学校1校(鏡中)5,844千円

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		87,293	113,677	111,730
財源内訳	国庫支出金	22,131	15,925	15,925
	地方債	43,600	29,500	29,500
	その他特定財源(特別会計→繰入金)		68,177	
	一般財源(特別会計→事業収入)	21,562	75	66,305

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国庫支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
154,182	87,293	22,131	43,600	0	21,562	45,500	21,389
〈主要な施策の概要〉		〈財源内訳〉					
学校等非構造部材耐震化事業 87,293		〈財源内訳〉					
小学校非構造部材耐震化事業 76,554		○国庫支出金 22,131					
麦島小非構造部材耐震改修工事		学校施設環境改善交付金(1/3) 22,131					
太田郷小外1校非構造部材耐震改修工事		○地方債 43,600					
鏡小外2校外壁等点検業務委託 他6件		○小学校非構造部材耐震化事業 39,800					
中学校非構造部材耐震化事業 10,739		○中学校非構造部材耐震化事業 3,800					
鏡中非構造部材耐震改修工事		5,844					
四中外壁等点検業務委託		4,895					
(繰越明許費 45,500) 令和4年度工事【3月補正分】							
小学校非構造部材耐震化事業 45,500							
宮地小外壁改修工事		45,500					

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	非構造部材調査及び耐震改修設計工事実施設計	校	計画	0	6	4	5
			実績	0	6	4	5	
②	校舎及び体育館における非構造部材対策の整備着手	棟	計画	17	0	0	6	
			実績	17	1	3	6	
成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	小・中学校体育館の天井等落下対策等の進捗率	%	計画	100			
			実績	100				
②	校舎外壁調査点検の進捗率	%	計画			11	22	
			実績			11	22	

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	小・中学校体育館、支援学校体育館及び幼稚園遊戯室の天井等落下対策については、それぞれ平成30年度、令和元年度、令和2年度までに完了し、小・中学校の校舎における天井(6m超)等落下対策についても令和3年度に完了した。また、令和2年度から校舎外壁調査点検(10年間1巡目)をスタートさせ、令和4年度から早期に外壁劣化状況を把握するため、計画の短縮を図ることとした。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

③(Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	体育館、遊戯室等の天井等落下対策が完了した。校舎外壁調査点検を開始したことから、今後は、その結果に基づく外壁や校舎の天井材、照明器具等の非構造部材について改修を計画的に進めていく。
今後の方向性	市による実施(規模拡充)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	国の学校施設環境改善交付金や地方債を活用する。また、必要に応じて平成28年熊本地震復興基金を活用することを検討する。

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No 13

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 生涯学習課・管理係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	自治公民館再建支援事業(豪雨災害)	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	4	生涯を通じて楽しく学べる充実した環境を提供します
			基本方針	16	社会教育施設の整備
			主な施策	1	生涯学習施設の整備・充実
事務事業の概要 (全体事業の内容)	令和2年7月豪雨により被災した坂本地域の自治公民館の再建に対して、事業費の3/4の補助を行う。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

令和3年度は、坂本公民館、松崎公民館、下代瀬公民館、下片岩公民館、横石公民館、下鎌瀬公民館の6公民館の改修・修繕を行った。また、未改修の自治公民館9地区について説明会を行い、今後の方針(改修予定)についてヒアリングを行った。

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		12,395	2,475	0
財源内訳	国県支出金	3,787		
	地方債	3,800	2,400	
	その他特定財源(特別会計→繰入金)			
	一般財源(特別会計→事業収入)	4,808	75	

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
12,410	12,395	3,787	3,800	0	4,808	0	15
〈主要な施策の概要〉		〈財源内訳〉					
坂本公民館(全壊)事業費4,931,315円 屋根以外すべて改修		3,698		○国県支出金 豪雨被災者等支援交付金		3,787	
松崎公民館(半壊)事業費227,765円 フローリング張替、エアコン更新		170		○地方債 文教施設災害復旧事業債		3,800	
下代瀬公民館(大規模半壊)事業費1,769,900円 壁・床・天井修理、流し台・エアコン取替		1,327					
下片岩公民館(全壊)事業費4,576,000円 屋根以外すべて改修		3,432					
横石公民館(大規模半壊)事業費1,746,150円 床・壁・エアコン取替		1,309					
下鎌瀬公民館(大規模半壊)事業費3,278,830円 床・壁・建具修理		2,459					

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	説明会参加団体数	地区	計画				20
			実績				20	9
②			計画					
			実績					

成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	補助申請団体数	地区	計画				6
実績							6	1
②			計画					
			実績					

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	3年度に要望のあった6地区の自治公民館の復旧は順調に完了することができた。4年度以降の改修希望地区については4年度が西鎌瀬公民館のみ、あとの公民館については被災した地区の再建の方針も決まっていない状況である。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3(Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	これからも市として支援を行う予定であり、毎年未改修地区との協議を継続していく。常に地元住民に寄り添った対応を実施していきたい。
今後の方向性	市による実施(現行どおり)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No 14

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 生涯学習課・社会教育係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	学校・家庭・地域の連携協力推進事業	施策の体系 (第2期八代市教育振興基本計画における位置づけ)	基本目標	3	学校・家庭・地域の協働により社会全体の教育力を高めます
			基本方針	10	学校・家庭・地域の協働
			主な施策	1	地域学校協働活動推進事業の充実
事務事業の概要 (全体事業の内容)	○八代市教育委員会内に八代市地域学校協働本部を設置し、地域学校協働活動を推進する。 ○学校・家庭・地域が連携できるよう地域コーディネーターを配置し、様々な学校協力活動を実施し、地域の子どもたちは地域で守り育てる機運を高めていく。 ○教職員OBなどによる学習支援を行い、小中学校における学力向上を図るとともに、別室登校者(不登校児童)への対応を行う。 ○放課後、帰宅するまでの時間を活用し、子どもたちの安全・安心な活動拠点を設ける。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

- 地域学校協働活動事業 【実施校】市内の全39の小・中・特別支援学校
 - ・活動内容 消毒作業、読み聞かせ、学習支援、農作業支援、まち探検、給食支援、クラブ活動支援等
- 放課後子供教室 【実施校】昭和、小、泉小
 - ・活動内容 宿題補助・集団遊び・伝承遊び・パソコン教室・読み聞かせ等
- 地域未来塾 【実施校】第一中、第三中、第四中、第六中、日奈久中、二見中、鏡中
 - ・活動内容 英語、数学の学習支援、別室登校支援等

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		3,944	6,718	6,718
財源内訳	国県支出金	2,484	4,460	4,460
	地方債			
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	26	28	28
	一般財源(特別会計→事業収入)	1,434	2,230	2,230

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
6,535	3,944	2,484	0	26	1,434	0	2,591

<主要な施策の概要>

<財源内訳>

<主要な施策の概要>		<財源内訳>	
地域学校協働活動			
地域学校協働活動推進員等謝礼	3,448	○国県支出金	
ボランティア活動保険料	83	地域と学校の連携・協働体制構築費補助事業補助金	2,484
教材等教室用消耗品	389	○その他特定財源	
		保険料実費徴収	26

活動指標	指標名	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
				計画	実績	計画	実績
①	地域未来塾実施回数	回	計画	144	168	150	180
			実績	121	241	179	234
	地域学校協働活動推進員活動日数	日	計画	100	100	200	700
			実績	61	185	620	552

成果指標	指標名	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
				計画	実績	計画	実績
①	地域未来塾参加児童・生徒数	人(延人数)	計画	3,000	3,600	3,000	2,300
			実績	3,588	3,218	2,258	1,541
	地域学校協働活動事業ボランティア数	人(延人数)	計画	500	600	1,500	3,000
			実績	517	1,520	2,617	2,094

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	<p>国や県では、2022年までに、地域学校協働本部の設置と地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)の配置率100%を目指していたが、本市では1年前倒しで達成ができた。</p> <p>コロナ禍のため、地域学校協働活動の動きは鈍化し、成果指標が達成できなかったものがあつたが、年度後半から小学校を中心に動きが活発となってきた。また、地域未来塾では3校が別室登校者への対応に取り組み、学校における働き方改革に大いに貢献できた。</p>

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3 (Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	<p>コロナ禍のため、感染防止とwithコロナにおける取り組みを積み上げていく。また、協力者を増やして行くため、保護者や地域住民への啓発に力を入れていく。さらに学校における働き方改革につなげていくため、コミュニティスクール(学校運営協議会)との一体的な推進や教職員との意見交換を実施する。</p> <p>本市の重要な教育課題である不登校問題について、学校と保護者だけでなく、関係機関、地域住民等の連携・協働体制を構築し、社会総掛かりで対応していく。</p>
今後の方向性	市による実施(規模拡充)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	国の施策に基づき、推進している事業であるため、引き続き、満額助成(補助率2/3)があるように要望を行っていく。

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No 15

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 生涯学習課・生涯学習推進係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	青少年体験活動事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	4	生涯を通じて楽しく学べる充実した環境を提供します
			基本方針	13	生涯を通じた学習活動の推進
			主な施策	2	多様な生涯学習機会の提供
事務事業の概要 (全体事業の内容)	豊かな自然の中での野外活動や集団生活を通じて自主性や協調性を育み、地域との交流を深めながら豊かな感性と健全な心身の育成を図る。また、親子で共に体験活動を行い、驚きや感動を共有し親子の絆を深め、市内外各地域を会場として体験プログラム(キッズチャレンジ)を企画し、開催する。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

◎キッズチャレンジ2021
 [体験活動]
 ①わくわくアウトドア体験(東陽町坂より上公民館他) ②夏休み子ども陶芸教室(赤星公園) ③みどりのものづくり体験(赤星公園)
 [親子のふれあい活動]
 ④親子で体験伝統工芸&郷土料理づくり(さかもと青少年センター)

コスト推移	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)	267	579	579
財源内訳	国県支出金	152	0
	地方債	0	0
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	72	358
	一般財源(特別会計→事業収入)	43	221

主要な施策の成果 (単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
595	267	152	0	72	43	0	328

<主要な施策の概要>

<財源内訳>

○わくわくアウトドア体験 ①開催日:7月31日(土) 場 所:坂より上公民館(東陽町) 参加者:12組27人(小学4~6年生と保護者) 協力者:5人(東陽町坂より上地区) ②開催日:8月21日(土) ※荒天中止 場 所:坂より上公民館(東陽町) 参加予定者:12組29人(小学4~6年生と保護者)	56	○国県支出金 伝統文化親子教室事業委託金 ※332千円のうち152千円を本事業に充当し、 残額180千円は、生涯学習推進事業(公民館講座)に充当	152
○夏休み子ども陶芸教室 開催日:8月5日(木) 場 所:赤星公園「水竹居の館」 参加者:20人(小学3~6年生)	72	○その他特定財源 青少年体験活動事業参加負担金	72
○みどりのものづくり体験 開催日:10月23日(土) 場 所:赤星公園 参加者:6組16人(小学4~6年生と保護者)	44		
○親子で体験 伝統工芸&郷土料理づくり 開催日:12月18日(土) 場 所:さかもと青少年センター 参加者:8組17人(小学生と保護者) 協力者:10人(中谷地域振興会)	95		

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	体験活動事業数	回		計画	4	4	4
				実績	4	4	0	4
②				計画				
				実績				
成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	参加者数	人		計画	160	160	160
				実績	166	161	0	95
②	参加者満足度 (楽しかった、参加して良かったと回答した数/参加者)	%		計画	100.0	100.0	100.0	100.0
				実績	99.1	99.2	0.0	100.0

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	コロナ禍による定員制限やわくわくアウトドア体験の2回目が荒天のため中止となったが、定員(100人)に対し、申込者(206人)と、市民の関心は高く、参加者の満足度も非常に高かったことから、ニーズに沿った体験プログラムが展開できたと考える。また、東陽町、坂本町等、各地域の団体と協働し、実施することで、地域間、世代間交流にも繋がった。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3(Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	コロナ禍でも開催できるように対策やプログラムを検討し、計画的に取り組む必要がある。また、ニーズに沿った体験プログラムを企画していくとともに、市民との協働による事業の効率化や世代間・地域間交流を促進し、子供たちの豊かな感性と健全な心身の育成を図っていく。
今後の方向性	市による実施(現行どおり)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No 16

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 生涯学習課・社会教育係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	図書館管理運営事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	4	生涯を通じて楽しく学べる充実した環境を提供します
			基本方針	14	人を育む図書館づくりの推進
			主な施策	2	図書館資料の収集、保存、提供
事務事業の概要 (全体事業の内容)	市民の読書活動、学習活動、調査研究活動等を支援し、市民の教育と文化の発展に寄与するため、必要な図書資料等を収集、整理、保存し、貸出又は閲覧に供するとともに、読書活動を推進する事業を行い、学習活動や文化活動の機会を提供する。 平成27年からは更なる図書館サービスの充実等を図るため、指定管理者制度を導入し、併せて、県内でもいち早く電子図書を導入した。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

- ・図書館協議会運営
- ・施設の軽微な修繕
- ・指定管理者への業務委託(八代市立図書館本館、移動図書館、せんちょう分館、かがみ分館)
- ・新型コロナウイルス感染防止対策(電子書籍コンテンツ、サーマルカメラ等)

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		146,741	140,833	140,833
財源内訳	国県支出金	6,000		
	地方債			
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	339	840	840
	一般財源(特別会計→事業収入)	140,402	139,993	139,993

主要な施策の成果 (単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
146,791	146,741	6,000	0	339	140,402	0	50

<主要な施策の概要>		<財源内訳>	
【通常分】 140,741		【通常分】	
報酬(図書館協議会委員)	82	○その他特定財源	17
施設整備修繕(図書館)	528	自販機電気料	17
図書館システムソフトウェア保守点検業務委託	2,614	自販機設置料(本館・せんちょう分館)	298
システム使用料	3,656	敷地使用料(電柱・電線)	6
指定管理委託(図書館)	133,861	コピー機設置料	12
		坂田道男・道太文庫基金利子	6
【新型コロナウイルス感染症対策分】 6,000		【新型コロナウイルス感染症対策分】	
新型コロナウイルス感染症対策事業(電子書籍、サーマルカメラ等)	6,000	○国県支出金	
		新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金	3,065
		新型コロナウイルス感染症対応総合交付金	2,935

活動指標	指標名	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
			計画				
①	開館日（本館）	日	計画	345	345	342	342
			実績	345	311	343	324
②	おはなし会（幼少向、0～2歳向、特別おはなし会等含む）（全館合計）	回	計画	350	370	370	370
			実績	364	377	30	174

成果指標	指標名	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
			計画				
①	図書貸出冊数（全館合計）	冊	計画	550,000	550,000	550,000	550,000
			実績	543,976	505,257	344,327	354,991
②	来館者数（全館合計）	人	計画	532,300	540,000	541,000	542,000
			実績	539,301	584,170	364,155	301,421

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	<p>令和2年度に引き続き新型コロナウイルスにより、図書館の利用者が減少したが、人数制限等を行うなど感染症対策を講じて、お話し会等のイベントを実施した。</p> <p>また、小・中学校の児童生徒に配布されているタブレット端末を活用し、ホーム画面に八代市電子図書館の専用アイコンを配置し、閲覧、貸出しができるように環境を整え、電子書籍の貸出数は、令和2年度の3,799冊から令和3年度は11,491冊となり、3倍の伸びであった。</p>

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3(Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	<p>更なるコロナ感染症対策が必要であり、安心して利用していただけるような環境整備として、電子書籍コンテンツの追加を行っていく。</p> <p>また、地方創生臨時交付金等の活用によりICタグを導入し、対面手続きをなくすセルフ貸出・返却機の導入を図るとともに、図書館運営の効率化と市民サービスの向上につなげ、併せてDX化を推進していく。</p>
今後の方向性	民間実施
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No

17

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 教育サポートセンター

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	特別支援教育相談事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	1	子どもたち一人一人の「生きる力」を育みます
			基本方針	5	特別支援教育の推進
			主な施策	1	支援体制の充実
事務事業の概要 (全体事業の内容)	特別支援教育アドバイザーによる相談支援活動を通して、特別な支援を要する児童生徒一人一人のニーズを把握し、必要とする支援内容と方法を明らかにするために、担任・特別支援教育コーディネーター・保護者など児童生徒の支援を実施する者の相談を受け、助言することで特別支援学級等の課題改善を図る。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

特別支援教育に関する専門性をもち、実践的指導力がある退職教員(特別支援教育アドバイザー)を教育サポートセンター内に配置し、来所、及びメールによる相談活動及び訪問による支援活動を行う。

(1)対象となる園児、児童生徒や学校のニーズ把握と指導内容・方法に関する助言 (2)校内における支援体制づくりへの助言

(3)個別の支援計画の作成への協力、保護者との連携・支援 (4)校内研修における講話

・勤務総日数 369日(週4日・1日6時間15分・2人合計日数) ・相談活動件数 のべ 1,802件

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		4,236	4,840	4,856
財 源 内 訳	国県支出金			
	地方債			
	その他特定財源(特別会計→繰入金)			
	一般財源(特別会計→事業収入)	4,236	4,840	4,856

主要な施策の成果

(単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
4,578	4,236	0	0	0	4,236	0	342

<主要な施策の概要>

<財源内訳>

会計年度任用職員報酬(特別支援教育アドバイザー)	2,949						
職員手当	585						
共済費	583						

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	相談件数	件	計画	400	400	1,000	1,500
				実績	541	479	1,465	1,802
②			計画					
			実績					

成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	本事業は、その対応事例が多様であること、短期で成果が上がるものではない（継続して複数回対応することが多い）ことから単なる数値による評価は難しい。よって、「成果指標なし」としている。		計画				
				実績				
②			計画					
			実績					

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	成果指標なし
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちやその保護者の抱える課題や困り感は、一人一人の状況により異なっている。その一人一人の状況に応じて、必要且つ適切な見立てを行い、子供たち本人や保護者、学校・園関係者が抱える課題や困り感の改善に向けて、特別支援教育アドバイザー(2人)が、専門的知識や経験を生かして適切な助言・アドバイスを行うことができた。 ・令和2年度から2人体制となったことにより、1人体制の令和元年度から1,000件ほど増加し、1人当たり平均900件を超える対応を行った。また、本事業については、教室を立ち歩く子供が落ち着いて授業を受けたり、具体的な関わり方を知り子供への適切な対応ができるようになった先生方が増えたり等、多くの事例を改善することができた。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3(Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の方向性としては、特別支援教育アドバイザーが2人体制になったことにより、これまでよりも多くの学校、園、保護者からの依頼に対応することが可能となったことを踏まえ、現状の対応体制を維持していく。また、よりよい対応を行うためにその他の関係機関・事業所等(八代支援学校、熊本県こども総合療育センター、八代教育事務所所属のスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、放課後デイサービス、心療内科、県立支援学校、高等学校)とケースにより情報共有・交換及び連携を今後も継続して推進していく。 ・改善点としては、複数の派遣依頼が毎日のようにあることから、適切に対応できる件数となるように同一日に対応する1人当りの対応件数を2件程度にできるように調整していきたい。
今後の方向性	市による実施(現行どおり)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No 18

点検・評価対象年度 令和3年度 所管課かい名・係名 教育サポートセンター

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	不登校児童生徒の適応指導事業	施策の体系 (第2期八代市教育振興基本計画における位置づけ)	基本目標	1	子どもたち一人一人の「生きる力」を育みます
			基本方針	2	豊かな心の育成
			主な施策	1	「不登校対策やつしろプラン」の共通実践
事務事業の概要 (全体事業の内容)	不登校状態にある子供に対して、個別や集団での活動を通して適応指導を行うため、本市では「くま川教室」の名称で適応指導教室を開設している。月・水・金曜日は、午前10時～午後3時、火・木曜日は、午前10時～正午の週5日開級し時間割を組み、できるだけ学校の日課や活動内容に近づけた取組を行っている。 指導員は令和2年度より2人増員し、10人体制となり、シフトを組んで指導にあたっている。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等
八代市に居住し、かつ、八代地域に存する小、中、特別支援学校に在籍する不登校児童生徒で、入級することが適当と認められる者を対象とし、不登校状態にある子供に対して、個別や集団での活動を通して適応指導を行うことにより、学校復帰を支援し、社会的な自立を目指す。令和3年度の通級児童生徒は32人(体験を含む)。その内訳は中学生31人、小学生1人。

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位:千円)		13,913	11,722	12,553
財源内訳	国県支出金	91	101	101
	地方債	0	0	0
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	73	65	65
	一般財源(特別会計→事業収入)	13,749	11,556	12,387

主要な施策の成果 (単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
15,593	13,913	91	0	73	13,749	0	1,680
＜主要な施策の概要＞				＜財源内訳＞			
【通常分】 くま川教室指導員 報酬 (10人分) 9,152 費用弁償 (通勤) 263 光熱水費 (下水道・電気・水道) 287 委託料 (機械警備・電気保安) 115 工事請負費 (くま川教室エアコン設置) 3,253 等 〈八代市学校・子ども教育応援基金対応分〉 73 機材購入 15 カレンダー作成 58				【通常分】 〈国県支出金〉 学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金 (1/3) 91 〈その他特定財源〉 八代市学校・子ども教育応援基金 73			

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	① 開級日数		日	計画		205	205	205
実績					205	180	167	181
② 指導員の数		人	計画		8	8	10	10
			実績		8	8	10	10

成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	① 在籍学校への登校人数		人	計画		6	6	7
実績					1	2	26	32
② 完全復帰人数		人	計画		2	3	4	5
			実績		8	2	8	3

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	<p>・平成23年度から月、水、金曜日の午後も開級して、引きこもりがちな生徒や生活リズムが乱れがちな生徒も通級しやすくなった。平成25年度から特別支援教育免許を持つ指導員を配置し、特性のある児童生徒への対応、保護者の相談対応、学校等関係機関との連絡調整を密にしている。そのような取組を行う中、令和3年度では、通級生32人中1回以上学校へ復帰できた児童生徒は32人。学校復帰できた児童生徒は3人。</p> <p>・大幅に学校復帰を果たすことができた理由については、一人一人の抱える課題が異なるものの、自信をなくしていた又は不安に感じていた心が元気になり、再び学校へ行ってみようという気持ちで、適応指導教室に通うことで生まれたことが一番の理由であると考えられる。また、指導員による子供たちへ寄り添った丁寧な関わりと指導が大きな効果を発揮していることも理由として挙げることができる。</p>

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3(Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	<p>・方向性としては、通級生の在籍校との連携・調整が不可欠であるため、今後も教育委員会(教育サポートセンター)で管轄し運営していく必要がある。また、児童生徒自身や家庭環境など個人情報を取り扱うため、民間委託等にそぐわないことから教育サポートセンターで管轄していく。さらに、学習、生徒指導、相談等多岐にわたる指導技能が求められるため、豊かな教職経験をもつ退職された指導員10人(令和2年度より2人増員)で児童生徒に寄り添った指導を進めていく。</p> <p>また、児童生徒の多くが課題をもつため指導上の苦労も多いが、勤務ローテーションの負担も従来より軽くなったことから通級生への丁寧且つ一人一人に応じた指導・支援を継続して進めていく。</p> <p>・改善点としては、今後も本市の不登校児童生徒数の増加に伴い通級者の増加が予想される。そこで、対応の充実を図るために現施設の環境整備充実と施設移転の方向で改善を進めたい。</p> <p>【現施設の環境整備充実と施設移転の考え方】</p> <p>・施設の老朽化と狭隘化に加え、中学生だけでなく小学生の入級希望者も年々増加していることを考えると、今後は、現施設の環境整備充実を行うとともに適応指導教室に適した移転先の調査を進めていく。</p> <p>・施設移転については、適応指導教室という施設の性格上、市保有の施設で、静かな環境の立地であること、必要な床面積があること、交通の利便性が良い等の条件がクリアできる既存施設を選定することがコストの削減にもつながる。</p>
今後の方向性	市による実施(規模拡充)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	現施設の環境整備充実や施設移転を行う場合は、予算の増額が予想される。利用できる補助金がないか確認をしながら施設移転を検討したい。

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No	19
----	----

点検・評価対象年度	令和3年度	所管課かい名・係名	博物館・学芸係
-----------	-------	-----------	---------

1 (Plan) 事務事業の計画				
事務事業名	博物館特別展覧会事業	施策の体系 (第2期八代市教育振興基本計画における位置づけ)	基本目標	4 生涯を通じて楽しく学べる充実した環境を提供します
			基本方針	15 文化創造に貢献する博物館づくり
			主な施策	1 特別展覧会の開催
事務事業の概要 (全体事業の内容)	八代の歴史と文化への理解を深め、郷土への愛着を育むため、その特色を探求し、魅力を発信する秋季展、全国各地の名品を八代にしながら鑑賞できる春季展、夏休み期間中の子どもたちも地域の歴史や文化を楽しんで学べる夏季展、城下町文化や八代の工芸品を紹介する冬季展など、多彩な内容の特別展を年4回開催する。			

2 (Do) 事務事業の実施	
令和3年度の事業内容等	
<p>開館30周年を記念する特別展覧会を年4回開催した。</p> <p>①春季特別展覧会「八代城主松井家の武器と武具」会期：令和3年4月23日～6月6日（開館日23日のみ、入館者46名） ・開会当日熊本県が感染リスクレベルを5（厳戒警報）に引き上げ、八代市も市施設の休館を決定。4月24日より臨時休館し、会期終了となった。 ・展示作品・解説を収録した「鑑賞ガイド」を博物館ホームページ上で公開。熊本日日新聞に大きく紹介され、多くの閲覧があった（ツイート閲覧数：23,792件）</p> <p>②夏季特別展覧会「やつしろ美術動物園2～博物館には動物がいっぱい～」会期：令和3年7月16日～8月29日（開館日数39日間） ・観覧者数2,633人（有料入館者1,402人 無料入館者400人 中学生以下831人） ・特別講演会「動物絵画の魅力」参加者21人／子ども体験講座@動物いっぱいミニ屏風を作ろう！参加者15人／満足度91%（アンケート回答者のうち満足と答えた割合、以下同様）</p> <p>③秋季特別展覧会「八代の歴史と文化30「妙見信仰と八代」」会期：令和3年10月22日～11月28日（開館日数33日間） ・観覧者数3,136人（有料入館者1,347人 無料入館者1,037人 中学生以下752人） ・特別講演会「八代妙見信仰のナゾを探る」参加者30人／満足度97%、図録販売数286冊（過去10年間で最多）</p> <p>④冬季特別展覧会「お殿様は買いもの上手～こだわりの江戸土産～」会期：令和4年2月4日～3月13日（開館日数33日間） ・観覧者数1,593人（有料入館者1,007人 無料入館者319人 中学生以下267人）／満足度91% ⑤開館30周年記念事業として、当館で発行した図録等を割引価格で販売し、市民の郷土学習意欲の増進に寄与することができた。 ・図録販売総数 1,657冊（例年の年間販売数：約400～500冊）</p>	

コスト推移		令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込
総事業費 (単位：千円)		9,043	10,237	10,300
財源内訳	国県支出金			
	地方債			
	その他特定財源（特別会計→繰入金）	3,232	6,018	6,000
	一般財源（特別会計→事業収入）	5,811	4,219	4,300

主要な施策の成果 (単位：千円)							
令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
13,866	9,043	0	0	3,232	5,811	0	4,823
<主要な施策の概要>				<財源内訳>			
春季特別展覧会事業 (2,042,852円)		その他の特定財源					
報酬（展示室監視員）		569		春季展観覧料収入（観覧料大人700円）		7	
通信運搬費（展示・撤収）		702		夏季展観覧料収入（観覧料大人400円）		527	
委託料（刀剣手入れ）		99		秋季展観覧料収入（観覧料大人800円）		991	
印刷製本費（令和3年度ポスター・ちらし）		398		冬季展観覧料収入（観覧料大人400円）		370	
夏季特別展覧会事業 (1,001,464円)		図録販売収入					
印刷製本費（ポスター・ちらし）		411		1,337			
通信運搬費（展示・撤収、ポスター郵送料）		448					
秋季特別展覧会事業 (4,588,953円)							
印刷製本費（ポスター・ちらし・図録）		1,671					
通信運搬費（借用・展示、撤収・返納）		1,833					
報酬（展示室監視員）		482					
冬季特別展覧会事業 (1,410,590円)							
印刷製本費（ポスター・ちらし）		411					
通信運搬費（借用・展示、撤収・返納）		518					
報酬（展示室監視員）		241					

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	特別展覧会の開催数	回	計画	4	4	4	4
				実績	3	4	1	4
②	特別展覧会に伴う講演会・講座の実施回数	回	計画	5	6	6	6	
			実績	5	5	1	3	

成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	展覧会総入館者数	人	計画	13,000	13,000	13,000	13,000
				実績	10,328	11,133	1,118	7,408
②	入館者の満足度(展覧会観覧者へのアンケートで、「よかった」と回答した割合)	%	計画	85	85	85	85	
			実績	91	92	96	93	

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	・R3年度は開館30周年を迎え、当館のこれまでの調査・研究の成果に基づき、充実した内容の展覧会を開催することができた。また文化庁のコロナ対策関連補助を受け、動画配信機器を導入し、展示案内等の動画作成・公開に取り組むことができた。 ・新型コロナウイルスの影響により、春季展は1日だけの開催で臨時休館のまま閉会、秋季展は規模を縮小し、九州館内及び市内に現存する作品の展示に変更、冬季展は講座を中止した。また市外からの来館減により観覧者数も伸びなかった。 ・展覧会観覧者アンケートによる満足度は、夏展91%、秋展97%、冬展91%、平均93%と多くの来館者が満足した結果となった。 ・特に秋展は、発刊図録の売上が過去10年で最高売上となり、八代の歴史と妙見信仰の関係を明らかにし、本市の魅力ある歴史を発信することができた。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3(Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	・本事業は、豊かな生涯学習活動の推進と次世代育成及び郷土に対する誇りの醸成や本市の文化向上のために重要な役割をもつ事業であることから、引き続き充実した内容の展覧会を開催していきたい。 ・1人でも多くの来館があるように、市民が興味を持つテーマの展覧会を企画し、当館ホームページやSNS、新たな情報機器を利用した動画配信などの情報発信を行いたい。
今後の方向性	市による実施(現行どおり)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	

令和4年度 教育に関する事務執行状況の点検・評価票

No 20

点検・評価対象年度 令和3年度

所管課かい名・係名 博物館・学芸係

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	博物館展示資料調査事業	施策の体系 (第2期八代市教育 振興基本計画にお ける位置づけ)	基本目標	4	生涯を通じて楽しく学べる充実した環境を提供します
			基本方針	15	文化創造に貢献する博物館づくり
			主な施策	2	展示資料調査の促進
事務事業の概要 (全体事業の内容)	八代に伝わる様々な美術工芸、歴史、民俗資料等の調査研究を行い、報告書を刊行する。これにより貴重な資料の内容を多くの人知ることができるようになり、博物館の展示活動の充実につなげることができる。これまでに、三淵家、竹田家、民俗行事、寺社資料、八代焼、松井文庫所蔵婚礼道具、雛人形などの調査を行ってきた。現在は、松井文庫所蔵古文書の調査事業を中心に行っている。そのほか、様々な資料調査を日常的に行っている。				

2 (Do) 事務事業の実施

令和3年度の事業内容等

■松井文庫所蔵古文書調査(総数約1万通、平成6年度から継続事業、28年目、令和2年度までに7,468通の調査、3,368通の解読を終了)
 旧八代城主松井家に伝来した近世の古文書は、八代のみならずわが国の歴史を知るうえで、貴重な史料群である。毎年、200~300点の整理・補修、調書の作成、写真撮影、解読を行い、隔年で調査報告書を刊行している。
 本年度は、新たに306通の古文書のクリーニング、整理、補修、調書作成、写真撮影を行い、解読作業を進めた。また、永尾正剛氏(元北九州市立いのちのたび博物館歴史課長)に調査指導・監修を依頼し、『調査報告書21』を350部刊行した。開館30周年事業として既刊調査報告書1~19を割引販売し、総計258冊を販売した。(R02年度実績:13冊)
 ■鹿子木家文書調査事業(令和2年度に寄託を受けた文政・千丁地域の干拓関係の古文書群3,204点)
 ・2,566点の整理・クリーニングを終了、調書作成を進めた。

コスト推移	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度見込	
総事業費 (単位:千円)	857	343	900	
財 源 内 訳	国県支出金			
	地方債			
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	205	62	100
	一般財源(特別会計→事業収入)	652	281	800

主要な施策の成果 (単位:千円)

令和3年度予算 (補正後)	令和3年度決算	左の財源				翌年度への繰越額	不用額
		国県支出金	地方債	その他特定財源 (特別会計→繰入金)	一般財源 (特別会計→事業収入)		
937	857	0	0	205	652	0	80
<主要な施策の概要>				<財源内訳>			
報償費(調査指導・監修謝礼)		165		その他の特定財源			
旅費(調査指導・監修者旅費)		43		古文書報告書販売収入		205	
印刷製本費(調査報告書印刷費)		501					
需用費(消耗品)		55					
役務費(郵便料)		70					
備品購入費(空気清浄機購入)		23					

活動指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	古文書の調査数	点	計画	200	200	200	200
				実績	224	244	202	306
②	調査報告書の発行数	件	計画	0	1	0	1	
			実績	0	1	0	1	

成果指標	指標名		単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	調査報告書の販売数	冊	計画	40	40	40	40
				実績	17	18	13	258
②	調査資料の利用点数（展示・閲覧等）	点	計画	200	200	200	200	
			実績	272	278	112	442	

3 (Check) 事務事業の自己評価

◆目標とする成果指標の達成状況	達成
◆事業内容の現状分析 ・事業の進捗状況や課題 ・目標達成できなかった要因 など	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な資料群が報告書として公開されることで、市民をはじめ全国の研究者が利用し、本市の貴重な財産として保存することができる。 ・本調査事業の成果として、秋季特別展の開催や常設展示の充実につながっている。さらに、東京・永青文庫にて「戦国最強の家老」展(令和4年3月12日～5月8日)が開催されるなど、全国への情報発信にもつながった。 ・報告書の割引販売により、全国から注文があり、本市の歴史への関心を高めてもらうことができた。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

3(Check)を踏まえた今後の方向性や改善の取組等	本事業は、古文書を解読し報告書刊行・販売することだけを目的にしておらず、今後、本市が行う展示活動や情報発信、関連調査等に活用し市民や研究者等に還元できるよう、引き続き、着実に正確な調査事業を進め、活用・情報発信を行っていく。
今後の方向性	市による実施(現行どおり)
市による実施(規模拡充)の場合で、予算の増額が伴う場合は、財源の考え方について記載してください	